

取扱説明書及び部品表

Takakita

リモコンラップマシーン

WM1601R



本製品を安全に、また正しくお使いいただくために
必ず本取扱説明書をお読みください。
お読みになった後も大切に保管してください。
本取扱説明書はお手持ちのスマートフォンや
タブレットからアクセスすることができます。



株式会社 **タカキタ**

は じ め に

このたびは本製品をお買い上げいただき、ありがとうございました。

この取扱説明書は、**リモコンラップマシーン**の取扱方法と使用上の注意事項について記載してあります。ご使用前には必ず、この取扱説明書を熟知するまでお読みの上、正しくお取扱
いただき最良の状態でご使用ください。

- お読みになったあとも必ず製品に近接して保存してください。
- 製品を貸与または譲渡される場合は、この取扱説明書を製品に添付してお渡してください。
- この取扱説明書を紛失または損傷された場合は、速やかにお買い上げの販売店または当社にご注文ください。
- 本書は、**注意**として知っておくとお得な製品の性能や、製品自体の損傷防止に関する留意事項を書いています。
- なお、本製品については不断の研究成果を新しい技術として直ちに製品に取り入れておりますので、お手元の製品と本書の内容が一致しない場合もありますので、あらかじめご了承ください。
- ご不明なことやお気付のことがございましたら、お買い上げの販売店または当社にご相談ください。

警 告 サ イ ン

 印付きの下記マークは安全上、特に重要な項目ですので、よく読んで必ずお守りください。

 **危険** その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。

 **警告** その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。

 **注意** その警告に従わなかった場合、ケガを負うおそれのあるものを示します。

目 次

 安全に作業するために	1
本製品の使用目的とサービスについて	20
各部の名称とはたらき	21
トラクタへの装着	25
1. ロワーリンクへの装着のしかた	25
2. 油圧ホースの接続	25
3. コントロールボックスの接続	26
4. 送信機の取扱い	27
運転に必要な装着の取扱い	28
1. ストレッチブラケットの高さ調節	28
2. フィルムサイズ変更時の組替え	28
3. テーブルベルト間隔の調整	29
4. ナイフ保護カバーの取外し	30
5. フィルム切断具合の調整	30
6. 安全ガードの取扱い	30
7. 自動時の回転停止位置の調整	31
8. アウトリガの設置	31
作 業 方 法	32
1. 作業手順と要点	32
2. 作業場所への設置	33
3. フィルムをセットする	34
4. ベールの積込み	35
5. 巻数設定	36
6. 自動放出と手動放出の設定	38
7. 無線による自動巻付け	39
8. コントロールボックスによる自動巻付け	44
9. コントロールボックスによる手動巻付け	45
10. バルブレバーによる手動操作	48
11. 作業から移動への切替え	49
12. フィルムの取外し	49
13. 保管・格納時の処置	49
作業前の点検について	50
点検一覧表	50
簡単な手入れと処置	51
1. オイルフィルタエレメントの交換	51
2. テーブル駆動ローラ・ 駆動チェーンの張り調整	51
3. ヒューズの交換	51
4. フィルムの取扱について	52
5. タイヤの点検・修理	52
6. 車輪止め	52
7. 作業中の草の除去	52
8. 各部への注油・グリスアップ	53
9. 長期格納時の手入れ	53
不 調 診 断	54
付 表	59
1. 主要諸元	59
2. 主な消耗部品	59
3. 配線図	60
4. 油圧回路図	61
5. コントロールボックス故障時の油圧バルブ操作方法	62



安全に作業するために

取扱説明書と本機に貼ってある**!**表示ラベルをよく読み、機械の使い方をよく理解した上で使用してください。また、機械を点検して異常がないかを確認してから使用してください。

機械を他人に貸すとき、または他人に運転をさせるときは、運転の仕方を教え、本書も貸与し必ず読んでもらってください。

1. 本機を使用するにあたって

(1) 使用する人の条件

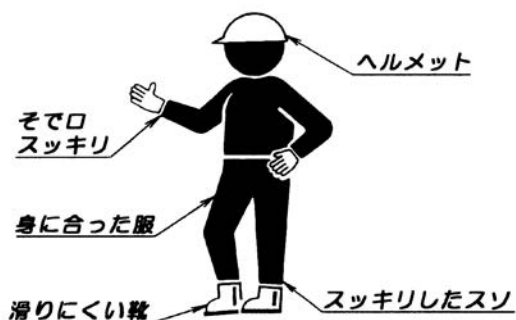
次の項目に該当する場合は本機を使用しないでください。

- 飲酒したとき。
- 過労・病気・薬物の影響・その他の理由により正常な運転ができないとき。
- 妊娠しているとき。
- 取扱方法を熟知していない人。
- 16歳未満の人。



(2) 使用する人の服装

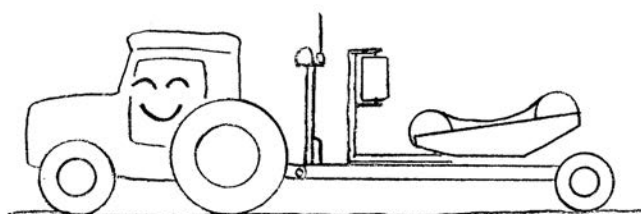
機械に巻き込まれたり、滑って転倒したりする事故を予防するため、首巻き・腰タオルをしないで、ヘルメット・滑り止めの付いた靴を着用し、だぶつきのない作業に適した服装で安全な作業をしてください。



(3) 適応トラクタ以外への装着厳禁

下記の装着条件に合致するトラクタ以外には装着しないでください。

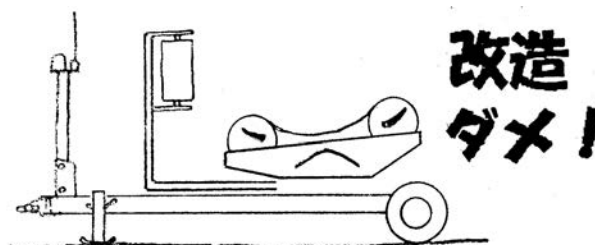
- 適応トラクタ馬力 : 22.0～73.5kw
(30～100PS)
- ロワーリンク規格 : カテゴリ I・II
- 電源用バッテリー : DC 12V
- 油圧取り出し : 複動1系統
20～25 リットル/分



(4) 機械の改造厳禁

純正部品や指定以外の部品を取り付けないでください。

また、改造しないでください。



(5) 使用目的以外への使用禁止

ロールベアラをラッピングすることを目的として作られた機械です。

他の目的には使用しないでください。



安全に作業するために

(6) 機械を他人に貸すとき

取扱方法をよく説明して、使用前には本機と無線機の『取扱説明書』を必ず読むように指導してください。



2. 点検・整備をしてください

(1) 1年毎の定期点検・整備を

整備不良による不具合や事故を防止するために、1年毎に定期点検・整備を受け、機械が最良の状態で作業ができるようにしてください。

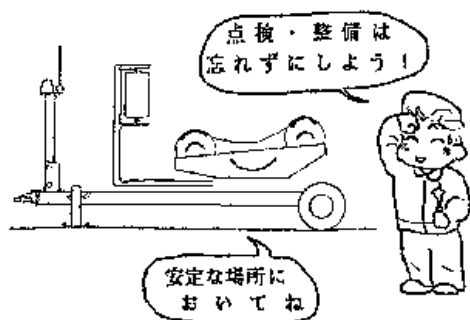


(2) 作業前の点検・整備を忘れずに

ご使用になる前と後には必ず点検・整備を行ってください。

(3) 点検・整備・掃除をするとき

点検・整備・修理・掃除をするときは、交通の危険がなく、機械が転倒したり、動いたりしない平坦で安定した場所で、トラクタのエンジンを停止させ、駐車ブレーキ、車止めをしてから行ってください。



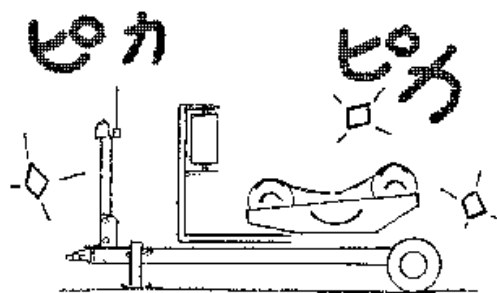
(4) ナイフに注意すること

ナイフ類は、絶対に素手で触れないでください。必ず手袋などの保護具を着用してください。



(5) 機械を常にきれいに

本機の性能を長期間維持するためにも、機械を常にきれいにしてください。



(6) 排気ガスには十分注意

屋内などでエンジンを始動するときはエンジンの排気ガスによる一酸化炭素中毒の恐れがあります。エンジンの始動は、風通しのよい場所で行い、やむをえず屋内で始動する場合には、十分換気を行ってください。



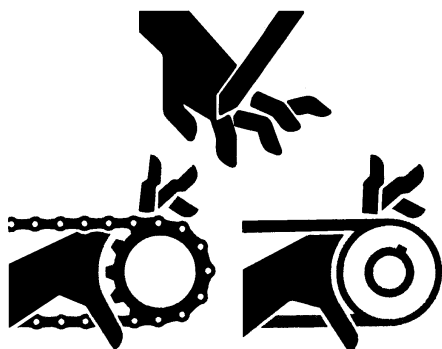


安全に作業するために

(7) カバー類を必ず取付ける

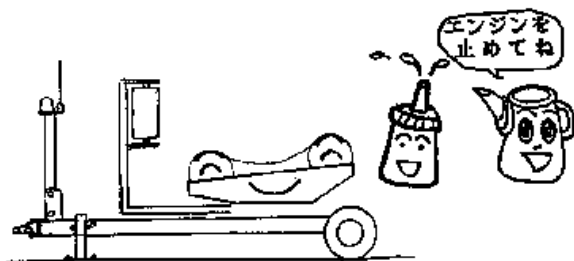
カバー類などの防護装置を取外すときは、必ずエンジンを止めてから行ってください。

また、取外したカバー類は必ず元どおりに取付けてください。守らないと、傷害事故を引き起こす恐れがあります。



(8) 注油・給油するときは

エンジンを止め、回転部分が完全に停止してから行ってください。



(9) 非常停止スイッチの動作確認を

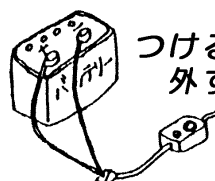
配線コードの外れなどが無いかを点検し、非常停止スイッチを押して本機の動作が停止するかを作業前に必ず確認してください。守らないと傷害事故を引き起こす恐れがあります。

(10) コントロールボックスの電源脱着は

トラクタのバッテリーより電源を取り出します。

その取付け方法は、(+) 側から行ってください。

外す時は、(-) 側から行ってください。逆にすると火花が飛び危険です。(詳細は本文の『コントロールボックス』の取付けを参照してください。



つける時は (+) 側から
外す時は (-) 側から



(11) タイヤの点検・修理をするときは

①タイヤの空気圧は、規定の空気圧を必ず守ってください。

②空気の入れ過ぎはタイヤ破損の恐れがあり、死傷事故を引き起こす原因になります。

③タイヤに傷があり、その傷がコード(糸)に達している場合は使用しないでください。

タイヤ破損の恐れがあります。

④タイヤ・チューブ・ホイールなどに関する交換・修理などは十分な整備施設をもち、特別教育を受けた人がいるタイヤショップ等の専門店で依頼してください。

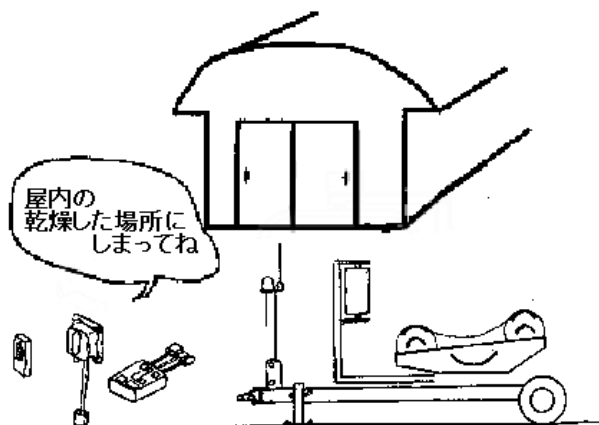




安全に作業するために

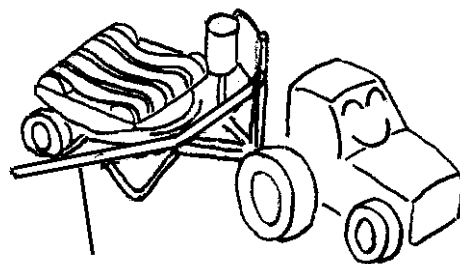
(12) 長期格納するとき

機械を清掃し、回転部及びチェーンには十分注油して、屋内の平坦な場所に車輪止めをして保管してください。コントロールボックスと無線機は、トラクタより取り外して屋内の乾燥した場所に保管してください。



安全ガード

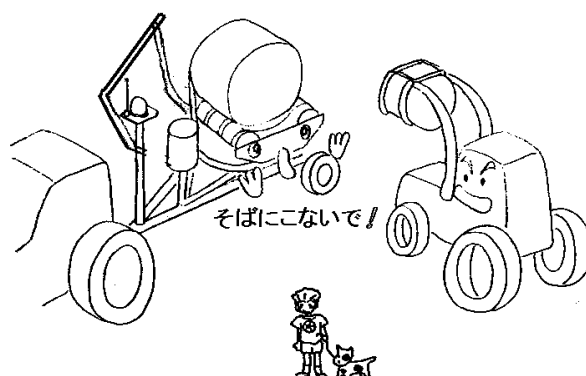
(3) 作業時は本機右側の安全ガードを広げてください。



(4) 人や動物を近づけない

無人運転となるので作業周辺に近づかないよう前もって周囲に趣旨徹底しておいてください。

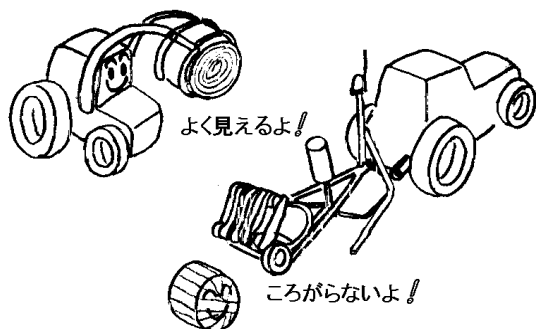
特に子供には十分注意し、近づけないようにしてください。



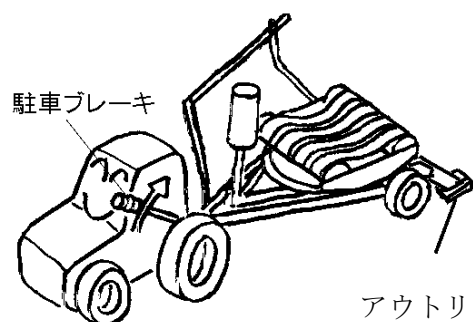
3. 作業・移動をするときは

(1) 作業は平坦で広い所で

作業は放出したボールが転動しない平坦でかつ作業者が作業を見通せる広い場所で行ってください。



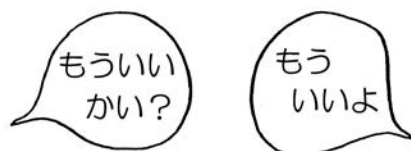
(2) 作業時はトラクタの駐車ブレーキと本機のアウトリガーの設置を行ってください。



アウトリガー

(5) 二人以上で作業するときは

二人以上の共同作業では、お互いに声を掛け合うなどして、安全を確かめ合いながら作業してください。





安全に作業するために

(6) エンジンを始動するときには

変速レバー及び、外部油圧切替えレバーを中立にし、周囲の人に合図をして安全を確かめてからエンジンを始動してください。

守らないと傷害事故を引き起こす恐れがあります。



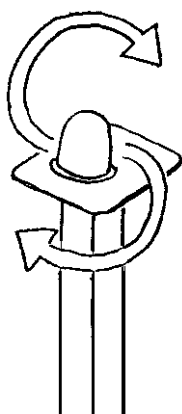
(7) 急な発進・停止・旋回・スピードの出しすぎ禁止

スピードの出しすぎ、急な発進・停止・旋回は、事故の原因となるだけでなく、機械の寿命も縮めますので行わないでください。

また、起状の多いほ場や傾斜地は、危険です。スピードは極力落として移動を行ってください。

(8) パトライト回転中は作業範囲内に入らないこと

パトライト回転中はまだ作業中です。機械が止まっても急に動き出すことがあるので作業範囲内には入らないでください。



作業範囲内に入るのは、パトライトが止まってから

(9) 移動の旋回のときは

トラクタに本機を装着しての移動やほ場での旋回は、必ず3点リンケージでリフトアップしてから行ってください。急旋回は危険ですので行わないでください。

(10) 移動の旋回のときは

トラクタに本機をけん引して旋回するときは、内輪差が生じるので十分注意してください。急旋回は危険ですので行わないでください。



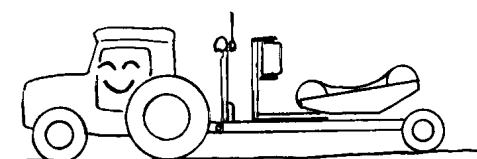
(11) ストレッチフィルムの交換や巻き付いた草などを取り除くときは

エンジンを必ず止め、回転部が完全に停止してから行ってください。守らないと傷害事故を引き起こす恐れがあります。



(12) 溝や段差を横断したり軟弱な所を通るときは

スリップや転倒による事故を防ぐために、幅・長さ・強度が十分あるスリップしないアユミ板をかけ、最低速度で通ってください。

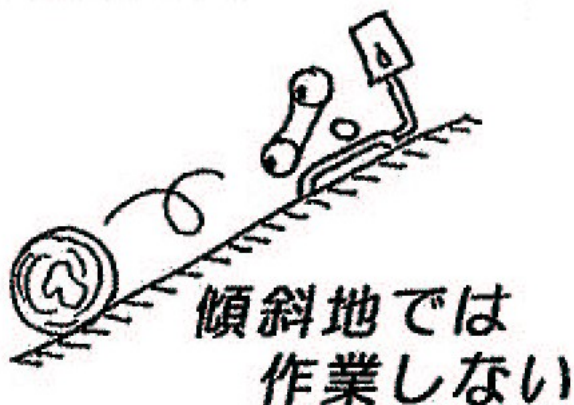




安全に作業するために

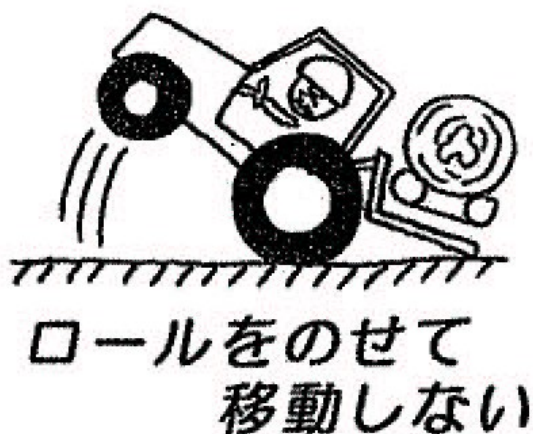
(13) 傾斜地作業は禁止

傾斜地での作業は、危険ですので絶対に行わないでください。必ず平坦地で作業してください。



(14) ロールを乗せたまま移動しない

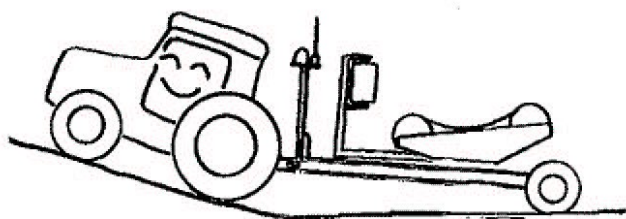
ロールを乗せたまま移動しないでください。守らないと転倒事故を引き起こす恐れがあります。



(15) 移動するときは

①けん引かんを上げる

特に、ほ場から出入りする場合には、本機損傷の恐れがありますので、ローリンクを上げてください。



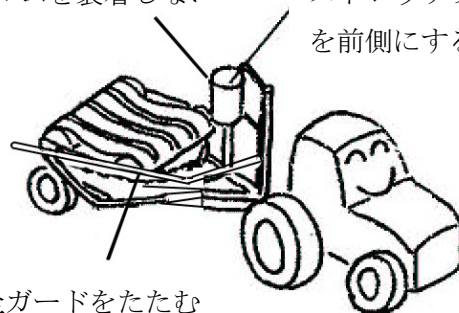
②安全ガードをたたんでください

移動するときはストレッチブラケットを前側にし、安全ガードをたたんで移動してください。

③フィルムを装着しないでください

移動時の振動によりフィルムを傷つける恐れがあるため、ストレッチブラケットにフィルムを装着しない状態で移動してください。

フィルムを装着しない ストレッチブラケットを前側にする



安全ガードをたたむ

(16) 高圧油に注意してください

①圧力がかかり噴出した油は、皮膚に浸透する程の力があり、傷害の原因になります。

②高圧油による傷害を防止するために配管・ホースなどの取り外し前には必ず残圧を抜いてください。

③圧力をかける前に配管・ホースなどは正しく確実に締め付けてください。

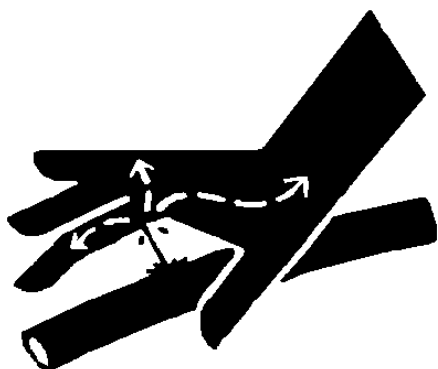
④非常に小さな穴からの油漏れは、ほとんど目に見えないことがあります。手で油漏れを探すことは止めてください。必ず、保護メガネをかけ、紙などを使用して調べてください。





安全に作業するために

- ⑤万一、油が皮膚に浸透したときは、強度のアレルギーを起こす恐れがあるので、すぐ医師の診療を受けてください。



(17) スタンドを移動位置にする

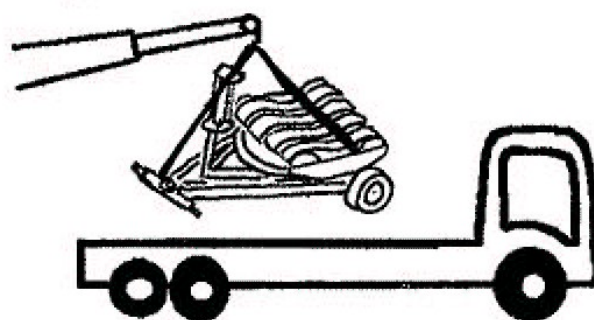
移動するときは必ずスタンドを上げて走行してください。

4. 道路走行・輸送するときは

(1) トラックなどへの積み込み・積降ろしは

平坦な場所でトラックが移動しないようエンジンを止め、サイドブレーキをかけ、車止めをしてください。

積み込んだ機械は車止めをし、強度が十分にあるロープで確実に固定してください。



⚠ 安全に作業するために

5. 公道走行するときは

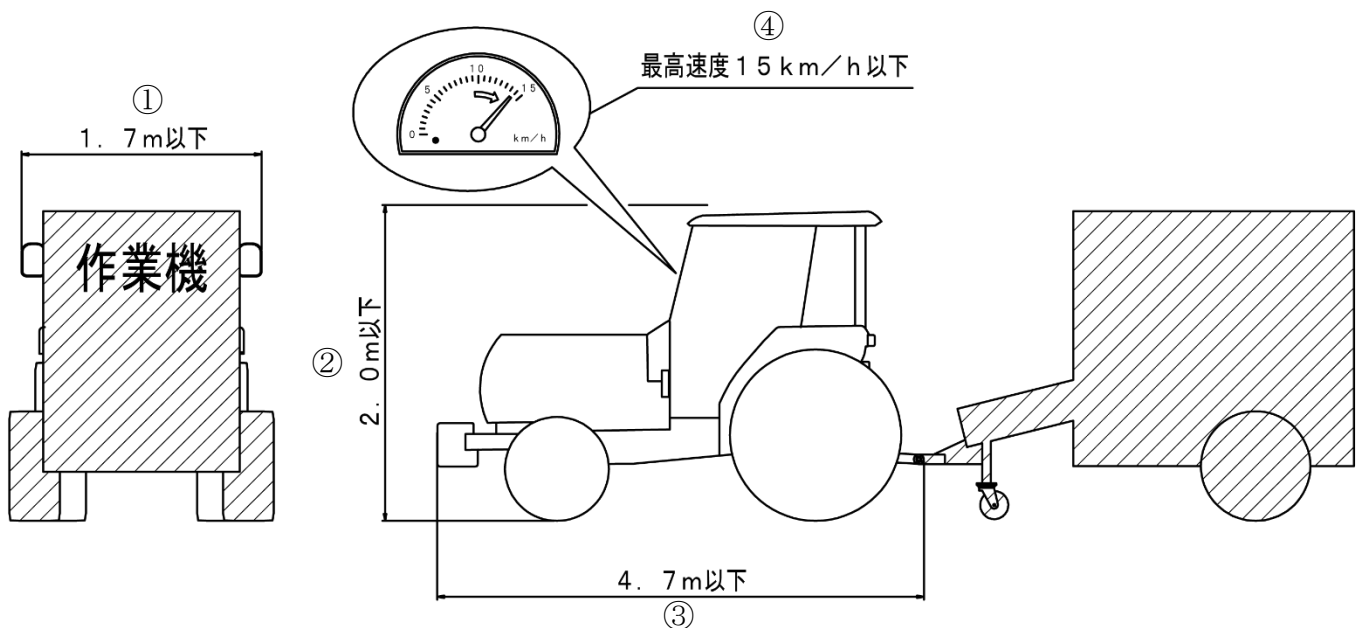
農耕用トラクタに関わる道路運送車両法の運用が見直され、保安基準に緩和措置が設けられました。必要な対応をすることで、けん引タイプの作業機で公道走行を行うことができます。公道走行をする際は、下記項目を確認した上で必要な対応を行い、法令遵守して走行してください。

(1) 必要な運転免許証について

トラクタの寸法が下表①～③の数値以内で④最高速度15km/h以下の場合は小型特殊免許で運行可能になりますが、下表①～④の数値をひとつでも上回る場合、大型特殊免許（農耕用に限る、も含む）とけん引免許（農耕用に限る、も含む）が必要となります。ただし、車両総重量750kgを超えない農耕作業用トレーラをけん引する場合、けん引免許（農耕用に限る、も含む）は必要ありません。

- | | |
|----------|-----------------------------|
| ① 幅1.7m | ② 全高2.0m（安全キャブや安全フレームは2.8m） |
| ③ 全長4.7m | ④ 最高速度15km/h以下 |

下図を参考にご確認ください。



⚠ 安全に作業するために

(2) 保安基準への適合性確認

自動車の種類と大きさにより、申請や検査登録が必要になります。

いずれの場合も農耕作業用トレーラ、農耕トラクタの使用者が保安基準適合性を確保する必要があります。

けん引車の農耕トラクタの種別	農耕作業用トレーラの種別と手続き
小型特殊自動車	[小型特殊自動車] ①一般的な大きさのもの ※1 ・個別に地方運輸局長から基準緩和の認定を、道路管理者から特殊車両通行許可を受ける必要はありません。
大型特殊自動車 (自動車検査証にけん引時の速度制限の基準緩和を受けた旨の記載があるもの)	②全幅が 2.5m を超えるもの ・道路管理者(地方整備局、各都道府県、各市町村等)に対し、個別に特殊車両通行許可を受ける必要があります。 ③長さが 12m または全高 3.8m を超えるもの ・個別に地方運輸局長から基準緩和の認定を、道路管理者から特殊車両通行許可を受ける必要があります。
大型特殊自動車 (上記以外のもの)	[大型特殊自動車] ①一般的な大きさのもの ※2 ・管轄の運輸支局等で検査登録が必要です。 ②長さが 12m または高さが 3.8m を超えるもの、その他オーバーハング等の基準を超えるもの ・管轄の運輸支局等で検査登録が必要です。 ・個別に地方運輸局長から基準緩和の認定を、道路管理者から特殊車両通行許可を受ける必要があります。

※1 全幅 2.5m、全長 12m、全高 3.8m を超えない大きさのもの

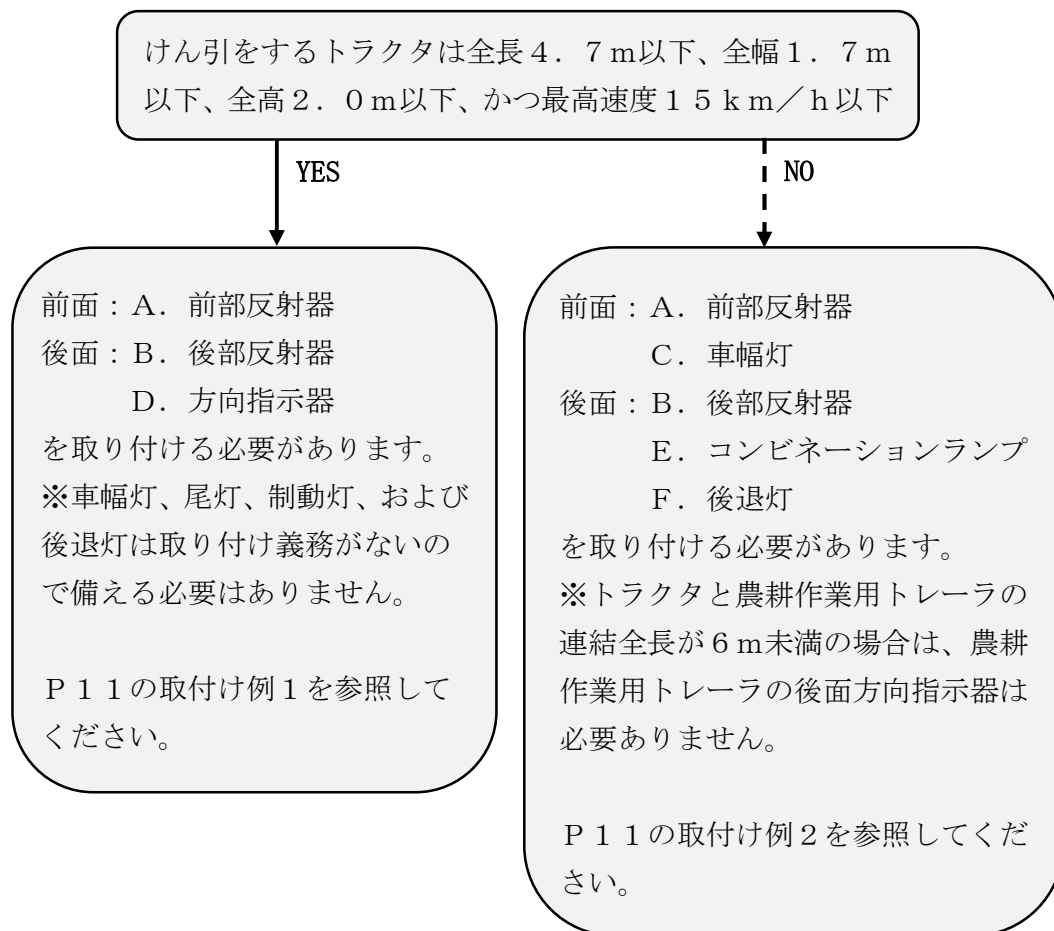
※2 農耕トラクタと農耕作業用トレーラの連結全長が 12m を超える場合、道路管理者(地方整備局、地方自治体等)から、特殊車両通行許可を受ける必要があります。

⚠ 安全に作業するために

(3) 灯火器類・ステッカの取付け

下記フローチャート①～③を全てそれぞれについてご確認ください、必要に応じて公道走行を行うための追加装備を取付けてください。

①トラクタの大きさ、最高速度による灯火器取付け位置

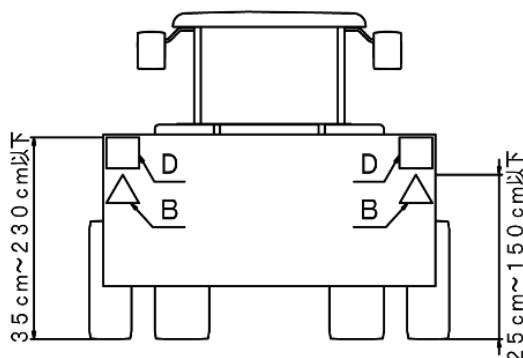


A.前部反射器	B.後部反射器	C.車幅灯	D.方向指示器
			
E.コンビネーションランプ		F.後退灯	
			

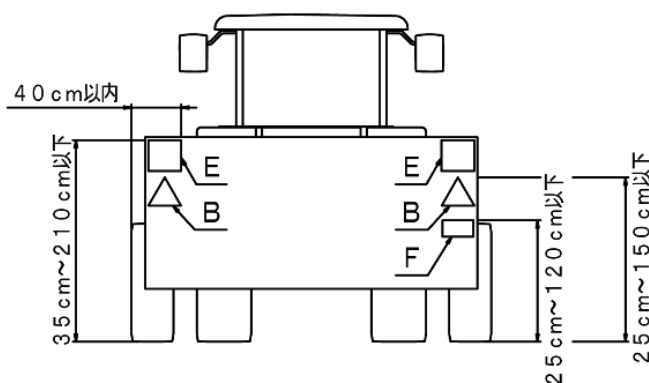
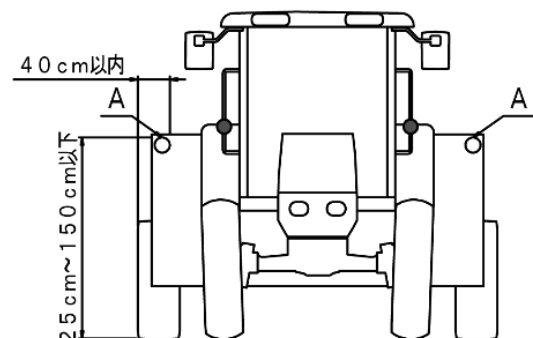
⚠ 安全に作業するために

● 装備の取付け位置

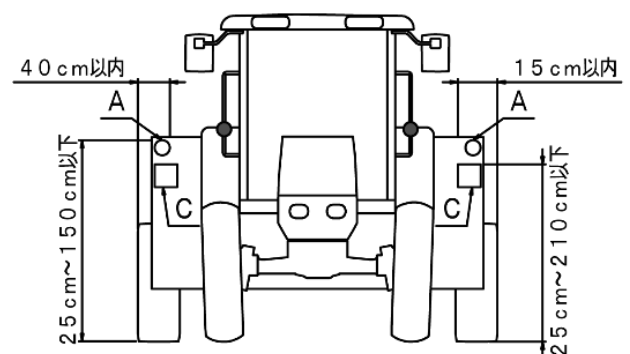
- ・道路運送車両の保安基準により、各種灯火器類の取付け位置は定められています。
 - 前部反射器(リフレクタ) 最外側から40 cm 以内、高さは地上25 cm 以上150 cm 以下
 - 後部反射器(リフレクタ) 最外側から40 cm 以内、高さは地上25 cm 以上150 cm 以下
 - 車幅灯 (ポジションランプ) 最外側から15 cm 以内、高さは地上25 cm 以上210 cm 以下
 - 方向指示器 (ウインカ) 最外側から40 cm 以内、高さは地上35 cm 以上230 cm 以下
 - 尾灯 (テールランプ) 最外側から40 cm 以内、高さは地上35 cm 以上210 cm 以下
 - 制動灯 (ブレーキランプ) 最外側から40 cm 以内、高さは地上35 cm 以上210 cm 以下
 - 後退灯 (バックランプ) 高さは可能な限り25 cm 以上120 cm 以下
- ・車幅灯は前方から確認(視認)できる位置に、上記条件を満たし、可能な限り左右対称になるように取付けてください。
- ・コンビネーションランプは後方から確認(視認)できる位置に、上記条件を満たし、可能な限り左右対称になるように取付けてください。
- ・後退灯は後方から確認(視認)できる位置に上記条件を満たすように取付けてください。



(取付け例 1)

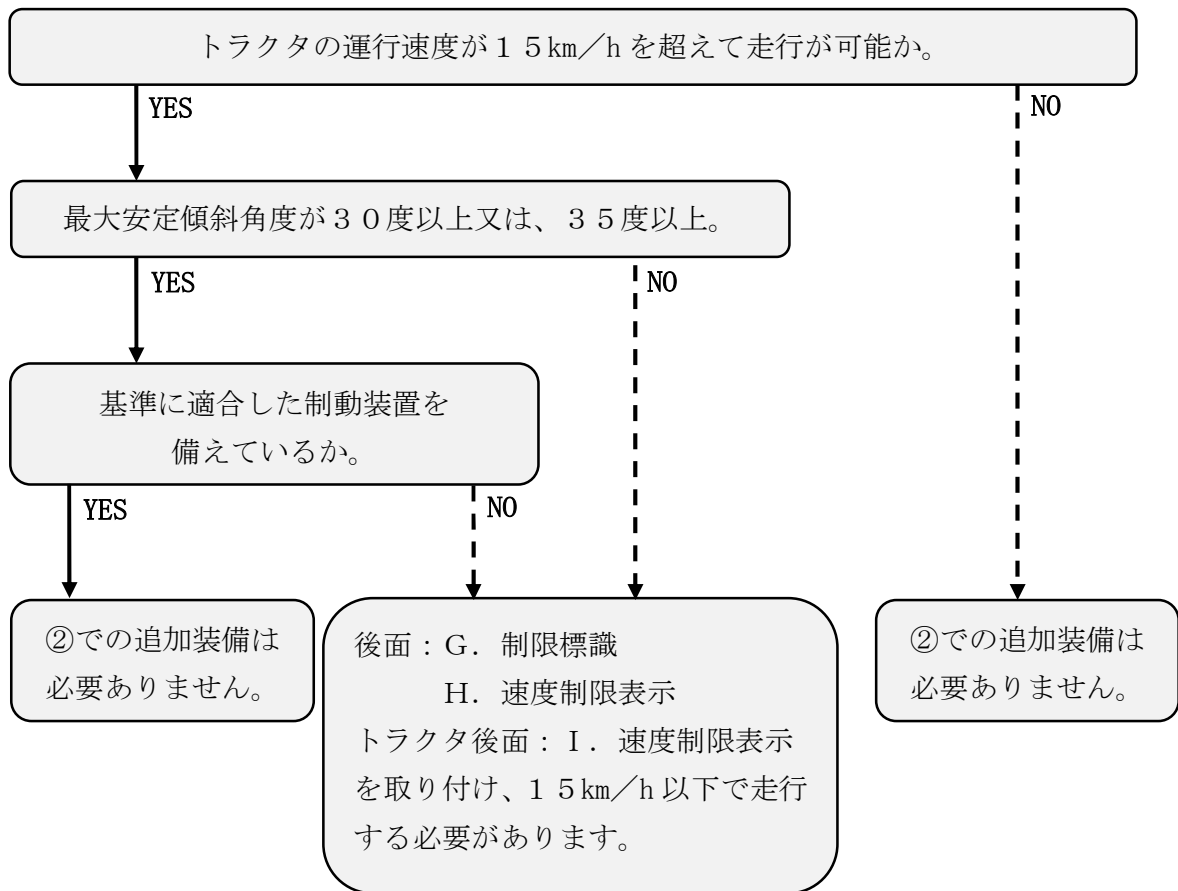


(取付け例 2)



⚠ 安全に作業するために

②トラクタの運行速度



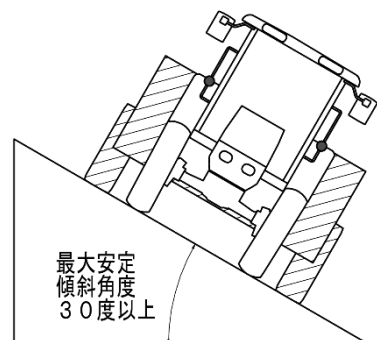
●最大安定傾斜角度が不明な場合は、運行速度 15 km/h 以下で走行してください。

<安定性に関して>

作業機を装着した際に、最大安定傾斜角度が 30 度以上又は、35 度以上（車両総重量が車両重量の 1.2 倍以上又は、積載により重心高さが上がるもの）であれば、通常の方法で道路走行できます。

上記条件を満たさない場合は、

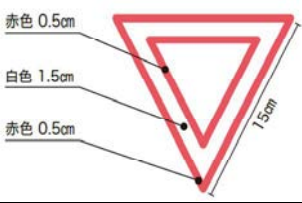
- ・運行速度 15 km/h 以下での道路走行
- ・道路走行をする際に、G を作業機後面に表示、
H を作業機後面に表示、
I をトラクタ後面・運転席に表示
を行う必要があります。



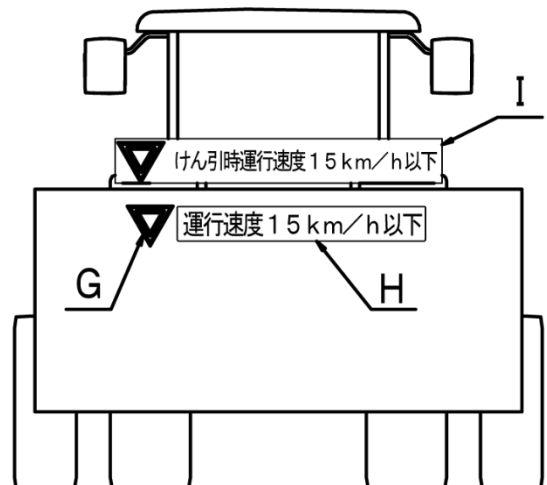
⚠ 安全に作業するために

● 装備の取付け位置

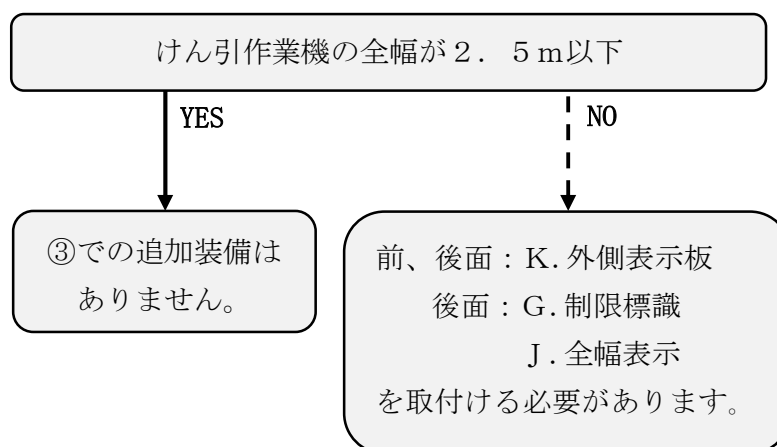
- ・ G、H、I は後方から確認できる位置に取付けてください。
- ・ H は運転席にも表示する必要があります。

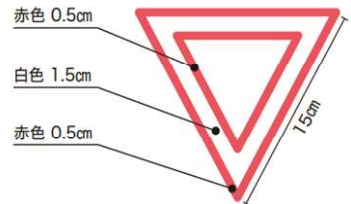
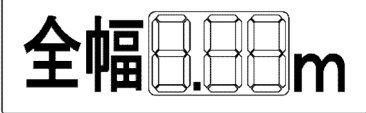
G. 制限標識	H. 速度制限表示（作業機側）
	
I. 速度制限表示（トラクタ側）	
	

（取付け例）



③ 作業機装着時の全幅



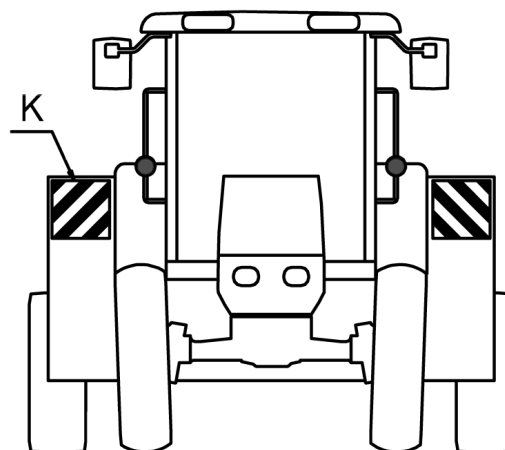
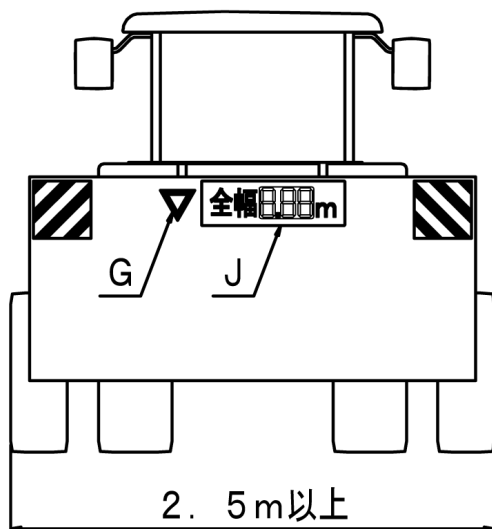
G. 制限標識	J. 全幅表示	K. 外側表示板
		

⚠ 安全に作業するために

● 装備の取付け位置

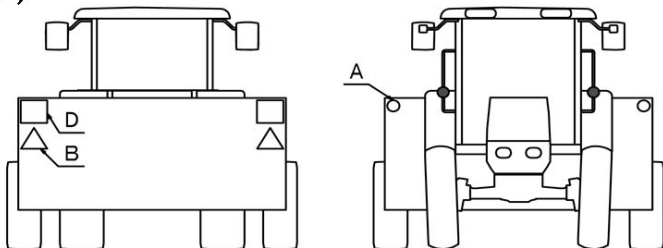
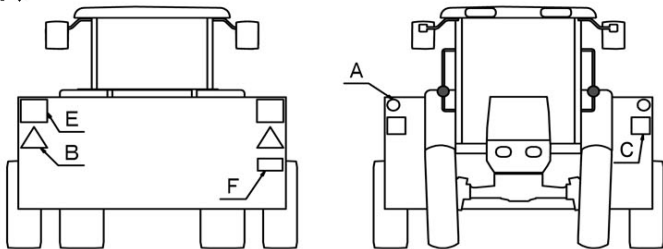
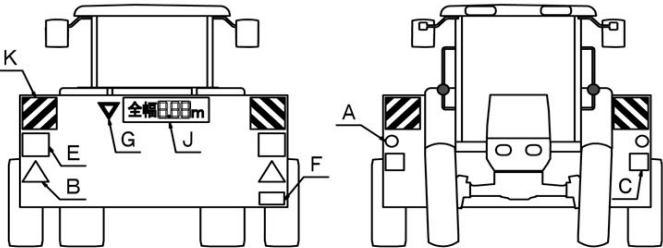
- ・ G、J は後方から見やすい位置に取付けてください。
- ・ K は前後、両端に赤白ラインが「ハの字」になるように取付けてください。

(取付け例)

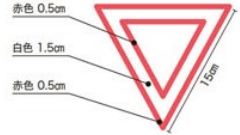


⚠ 安全に作業するために

灯火器類・ステッカ 取り付け例

灯火器取り付け位置 車幅灯 前部反射器 尾灯 後部反射器 制動灯 方向指示器 後退灯	全長4.7m以下、 全幅1.7m以下、 全高2.0m以下、 最高速度15km/h 以下の場合	(ア) 
	上記の寸法 または最高速度 15km/hを1つでも 上回る場合	(イ) 
	全幅が2.5mを 超える場合	(ウ) 

灯火器・ステッカ

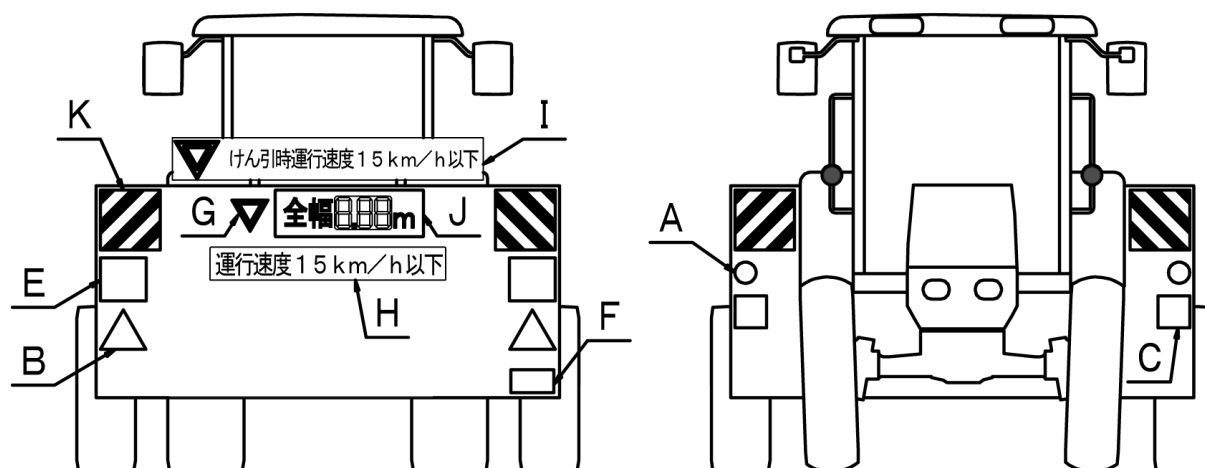
A. 前部反射器	B. 後部反射器	C. 車幅灯	D. 方向指示器	E. コンビネーションランプ
				
F. 後退灯	G. 制限標識	H. 速度制限表示 (作業機側)	I. 速度制限表示 (トラクタ側)	
				
J. 全幅表示	K. 外側表示板			
				

※全幅2.5mを超過する場合は、道路管理者（国道：地方道路局、県道：各都道府県、市道：各市町村）から特殊車両通行許可を得る必要があります

⚠ 安全に作業するために

- P 1 2 「②トラクタの運行速度」を確認後、速度制限表示が必要な場合は取付けてください。

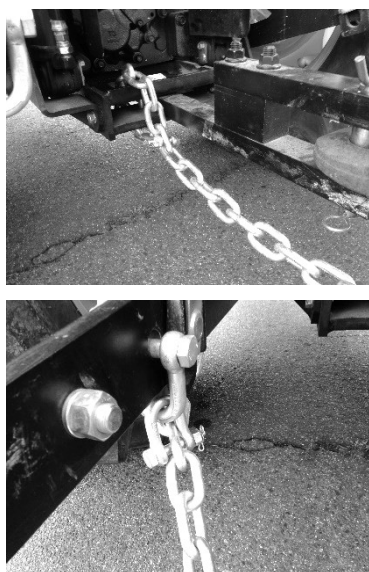
例：（ウ）に速度制限表示を追加



- 灯火器類取付けの際には、トラクタの操作と連動して点灯することを確認後に公道走行を行ってください。また、灯火器類・ステッカが汚れたときは視認できるように掃除をしてください。

（４）農耕作業用トレーラの構造要件（分離時の連結維持構造）に関して

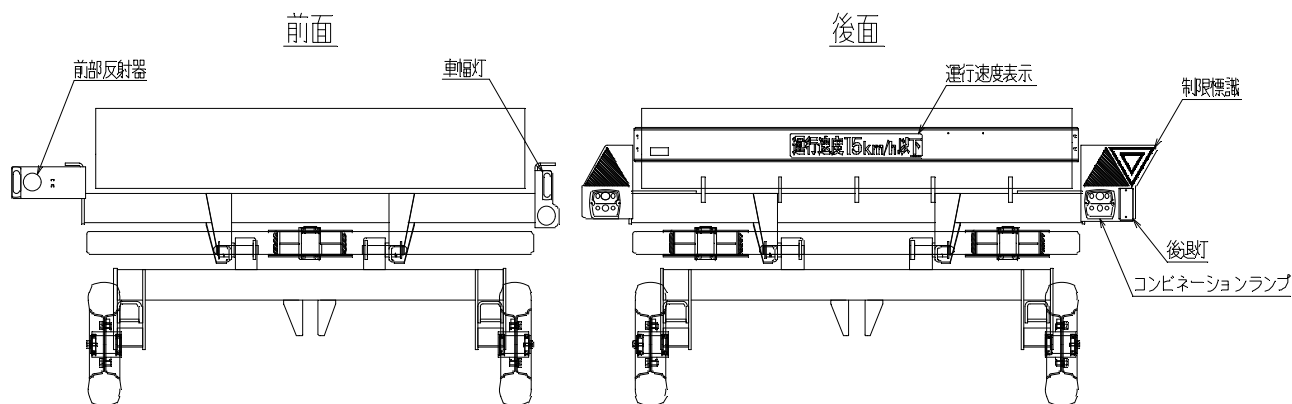
農耕トラクタが農耕作業用トレーラをけん引した際に、不意に連結装置（ドローバ等）が分離したときでも農耕トラクタと農耕作業用トレーラの連結を保つことができる構造でなければ道路走行できません。セーフティチェーン等を備え、けん引時にはセーフティチェーン等をねじ止め等でつないで道路を走行してください。



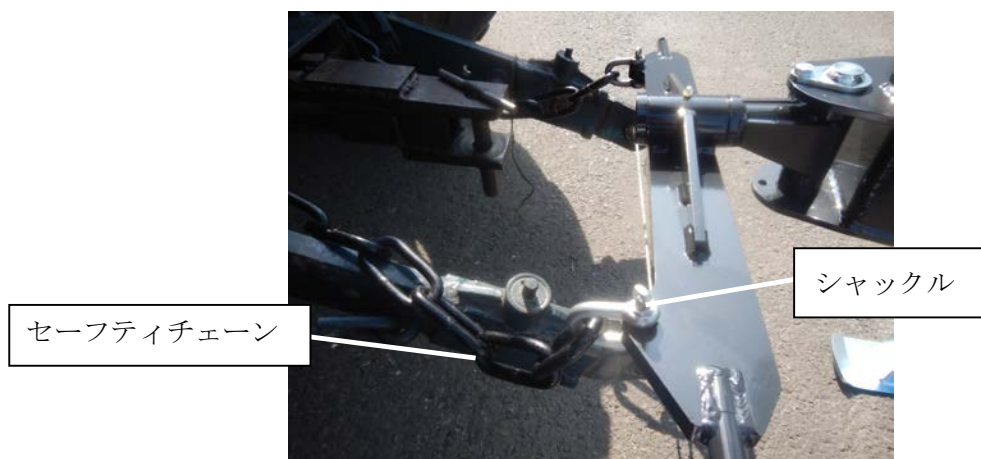
⚠ 安全に作業するために

(5) 本機の公道走行対応について

公道走行を行う場合は、公道走行対応テールランプアタッチ(WM1601R-TL)を購入頂き、取付けることで公道走行を行えます。



公道走行対応テールランプアタッチ(WM1601R-TL)には、トラクタと作業機を連結するためのセーフティチェーンと固定用のシャックルを付属しています。作業機をトラクタでけん引して公道走行する際は必ず取付けてください。



公道走行対応テールランプアタッチ(WM1601R-TL)には、トラクタ運転席に表示する運行速度表示を付属しています。運転席から確認できる位置に表示してください。

運行速度表示 (トラクタ運転席用)

けん引時運行速度15km/h以下

詳細は日農工「公道走行ガイドブック」(<http://www.jfmma.or.jp/koudo.html>)をご覧ください。

その他不明な点は、お買い上げいただいた販売店にご相談ください。

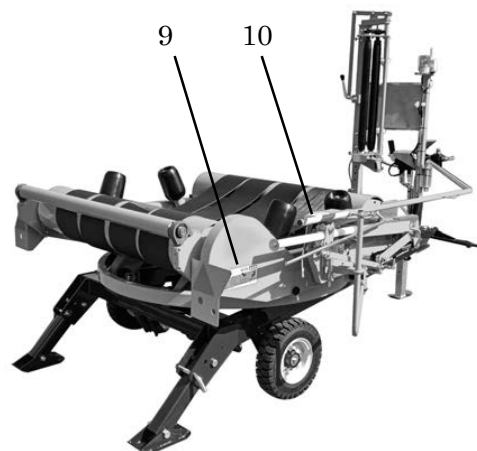
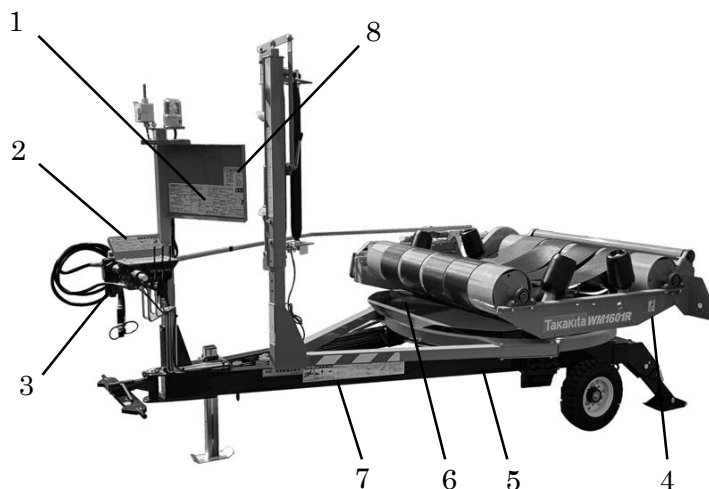
以上、機械の取扱いで注意していただく主だった事項を記載しましたが、これ以外にも

本文の中で ⚠ 印を付けて安全上の注意事項を表記しております。



安全に作業するために

6. 警告ラベルの貼付け位置



①部品コード 00130-4500-721

②部品コード 00130-7001-221

③部品コード 00130-6002-110



④部品コード 00130-6002-140

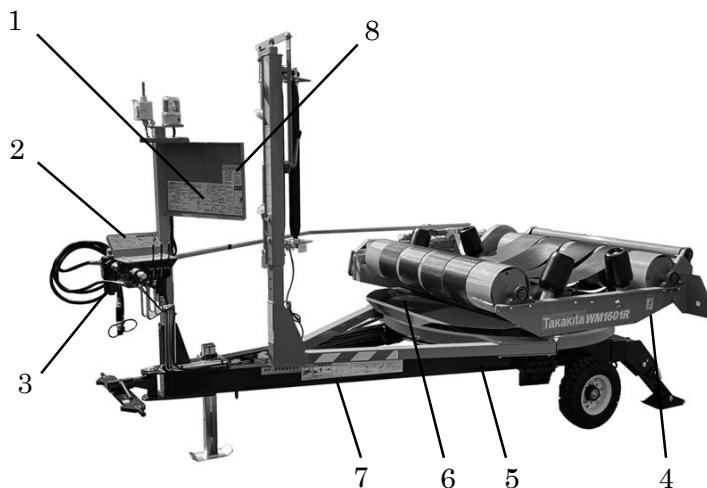
⑤部品コード 00130-6002-121

⑥部品コード 00130-6000-220

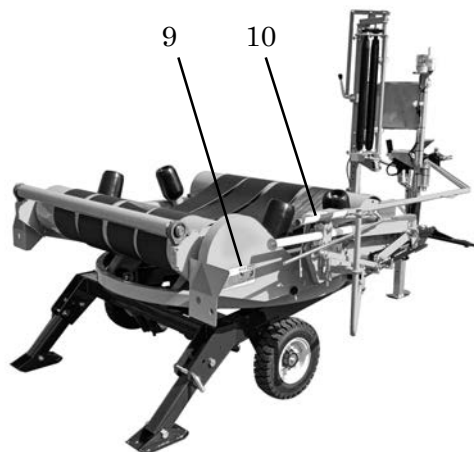
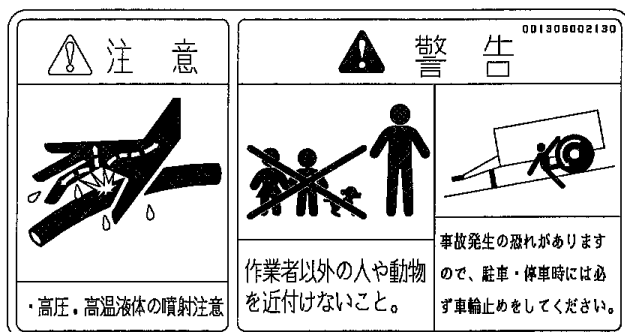




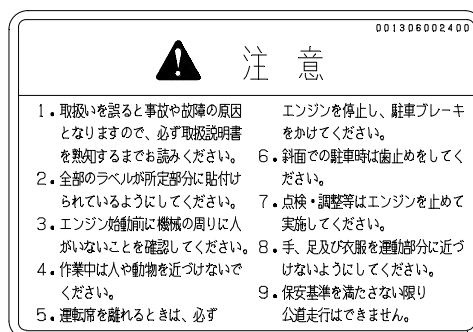
安全に作業するために



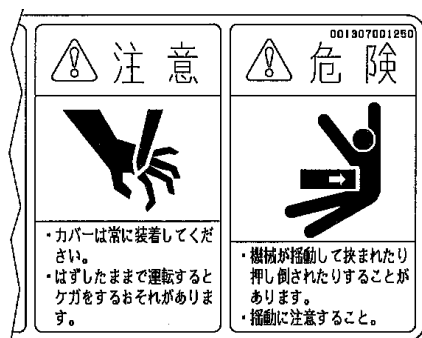
⑦ 部品コード 00130-6002-130



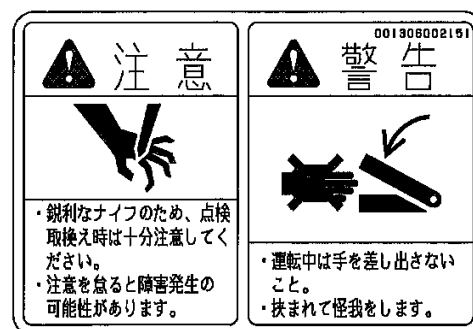
⑧ 部品コード 00130-6002-400



⑨ 部品コード 00130-7001-250



⑩ 部品コード 00130-6002-151



警告ラベルの取扱い注意事項

- (1) 警告ラベルはいつもきれいにして傷をつけないように、また汚れている場合、中性洗剤で洗い、軟らかい布で水気を拭いてください。
- (2) 傷ついたり、汚れたり、はがれた場合は、お買い上げの販売店又は当社に注文し新しいラベルを元の位置に貼ってください。
(ラベルをご注文の際は部品コードをご連絡ください。)
- (3) 警告ラベルが貼ってある部品を交換する場合は、新しいラベルを注文して元の位置に貼ってください。
- (4) 新しいラベルを貼る場合は、汚れを拭き取り、乾いた面に貼ってください。
気泡は隅の方へ押しながら抜いてください。

本製品の使用目的とサービスについて

本製品の使用目的について

本製品は、ロールペーラのラッピングにご使用ください。

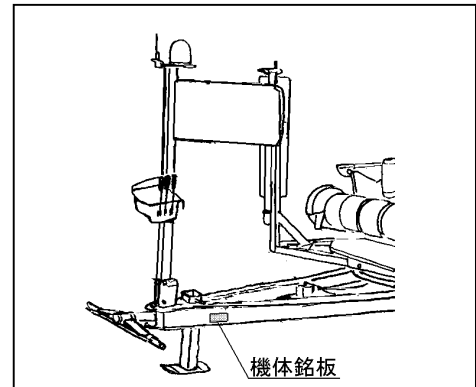
使用目的以外の作業や改造などは、決して行わないでください。

使用目的以外の作業や改造をした場合は、保証の対象になりません。

(機体銘板貼付け位置図)

アフターサービスについて

機械の調子が悪いとき、不調診断に従って点検・処置しても、なお不具合があるときは、お買い上げいただいた販売店、農協、または、お近くの当社営業所までご連絡ください。



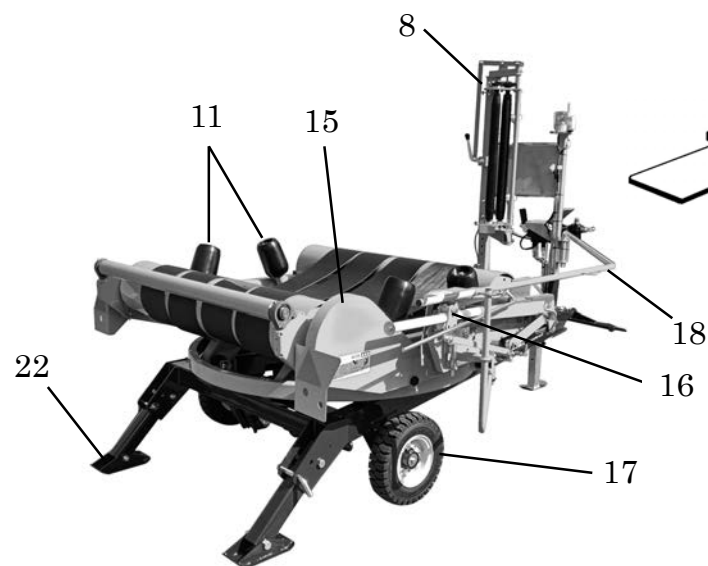
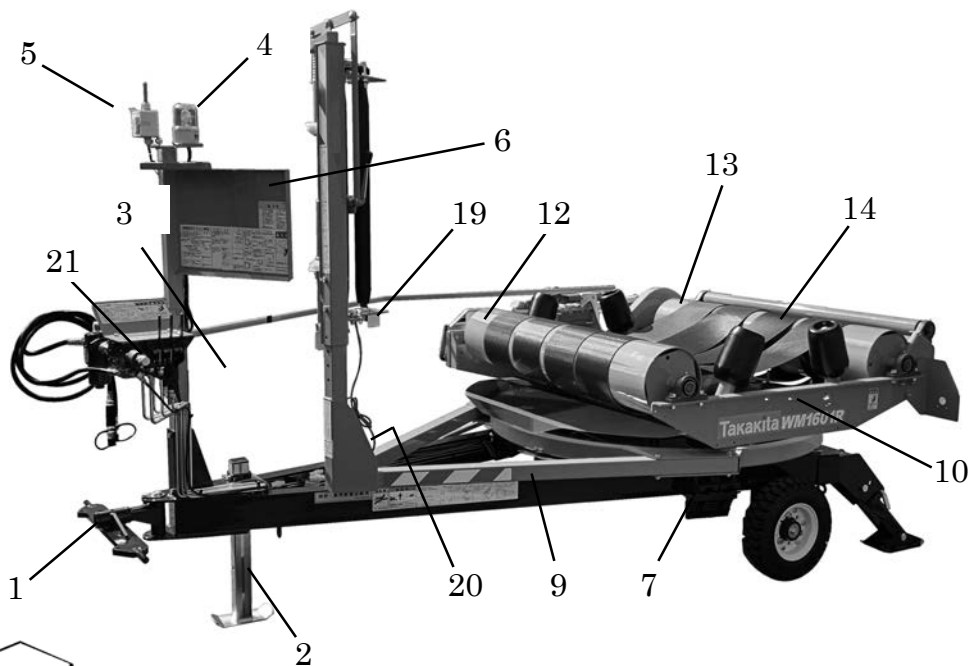
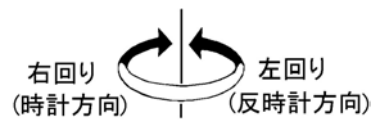
【連絡していただきたい内容】

- 品名と型式
- 機体 No. (S E R - N o)
- ご使用状況は？ (どんな条件でどんな作業をしていたときに)
- どれくらい使用されましたか？ (約〇〇時間使用後)
- 不具合が発生したときの状況をできるだけ詳しく教えてください。

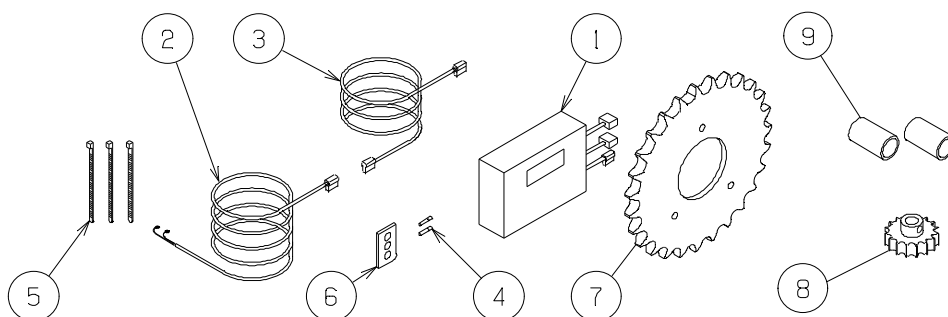
【今後参考のため、次の空欄に機体 No. などを記入しておいてください。】

品 名	リモコンラップマシーン		
型 式	WM1601R		
機 体 No. (SER-No.)	本機	無線機	
購入年月日	年	月	日
販売店名	TEL : ()		

各部の名称とはたらき



付属品 (箱の中に入っています)



各部の名称とはたらき

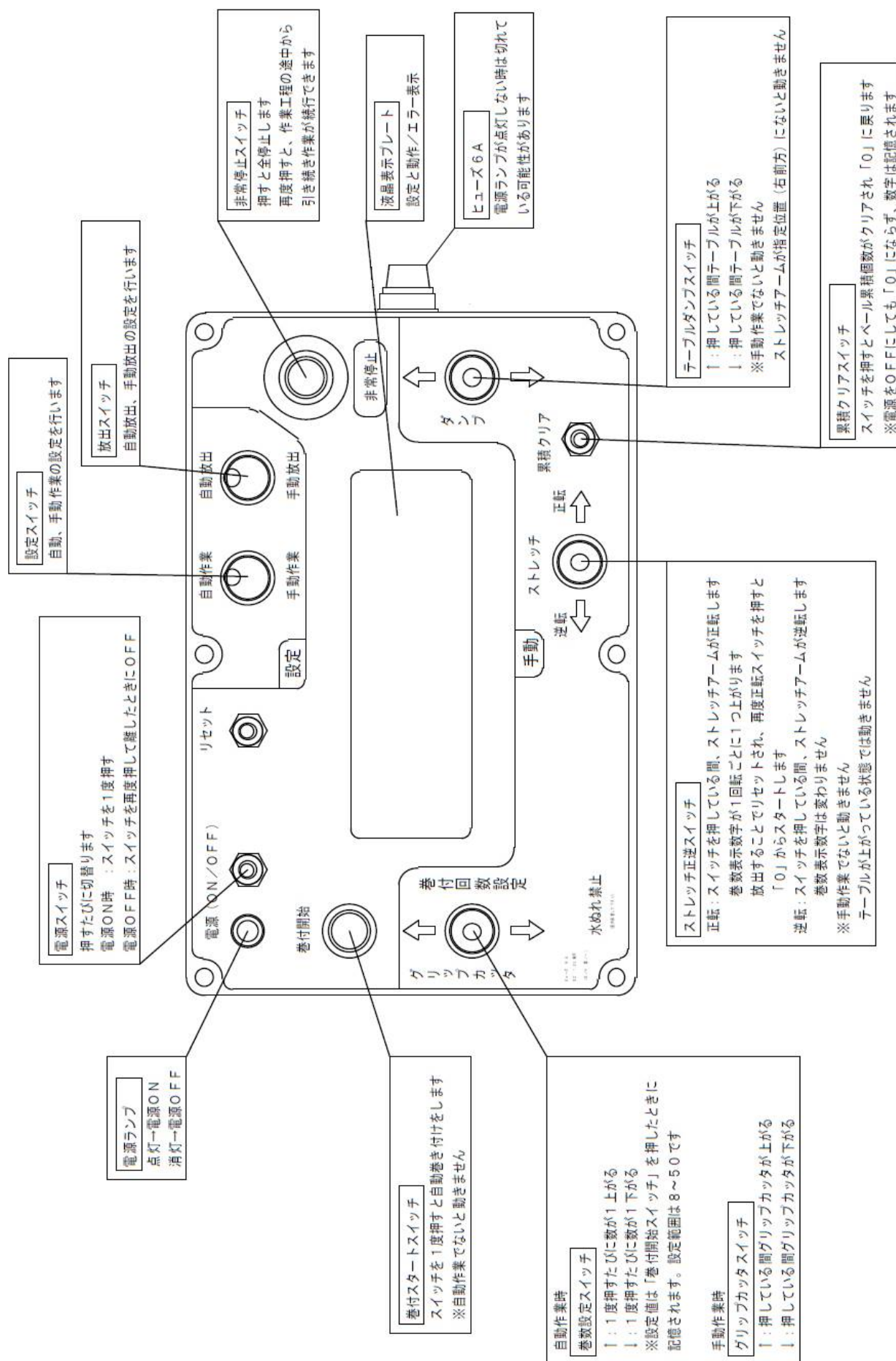
番号	名 称	は た ら き
1	けん引ヒッチ	トラクタのロワーリンクに連結する
2	スタンド	作業時とトラクタから切り離す時には下げる
3	バルブ	各モータ、シリンダを動かす油圧装置。操作は基本的には送信機（⑥）またはコントロールボックス（①）で行い、バルブレバーは操作しない
4	パトライト	自動運転している間、点灯回転する 点灯回転中は作業範囲内に入らないこと
5	受信機	無線の電波を受け取る
6	ボックスベース	コントロールボックスをセットするベース
7	車輪止め	作業時とトラクタから切り離れた時、車止めをする
8	ストレッチブラケット	フィルムをセットする、およびフィルムを引き伸ばす
9	ストレッチアーム	回転して、フィルムをベールに巻きつける
10	テーブル	ベールを乗せるための台、放出時ダンプする
11	サイドローラ	ベールの横ずれ防止
12	テーブルローラ（前）	ベールを回転させる補助ローラ
13	テーブルローラ（後）	ベールを回転させるローラ
14	テーブルベルト	ベールをささえ、回転させるベルト
15	カバー	テーブルローラ（後）のスプロケット、チェーンなどのカバー
16	グリップカッタ	フィルムを保持、切断する装置
17	タイヤ	けん引、移動のためのタイヤ
18	安全ガード	作業時、広げて立ち入り禁止とします
19	フィルム切れセンサ	フィルムが無くなった、切れたことを感知します
20	フィルムセンサボックス	フィルム切れセンサの信号を送信します
21	フィルタ	オイルの汚れを取り除きます
22	アウトリガ	接地させることで作業時の振幅を抑えます

付属品（箱の中）

番号	名 称	は た ら き
①	コントロールボックス	本機の動きを制御する電気ボックス（詳細別紙）
②	電源コード	バッテリーより電源を取り出します
③	延長コード	電源コードとコントロールボックス間の接続コード
④	予備ヒューズ	コントロールボックス（6 A）、電源コード（30 A）の予備ヒューズ各 1 ケ（コントロールボックスの裏側に張付け）
⑤	リピータイ	電源コード設置時、たるまないよう適当にしばる（3 本）
⑥	送信機	無線の電波を出すボックス
⑦	スプロケット #50-T42	フィルム巾 750mm へ変更する場合に使用します
⑧	プラチックギヤ	気温の低下などでフィルムが切れやすい場合に使用します
⑨	カラー	カテゴリ II 用のカラー

各部の名称とはたらき

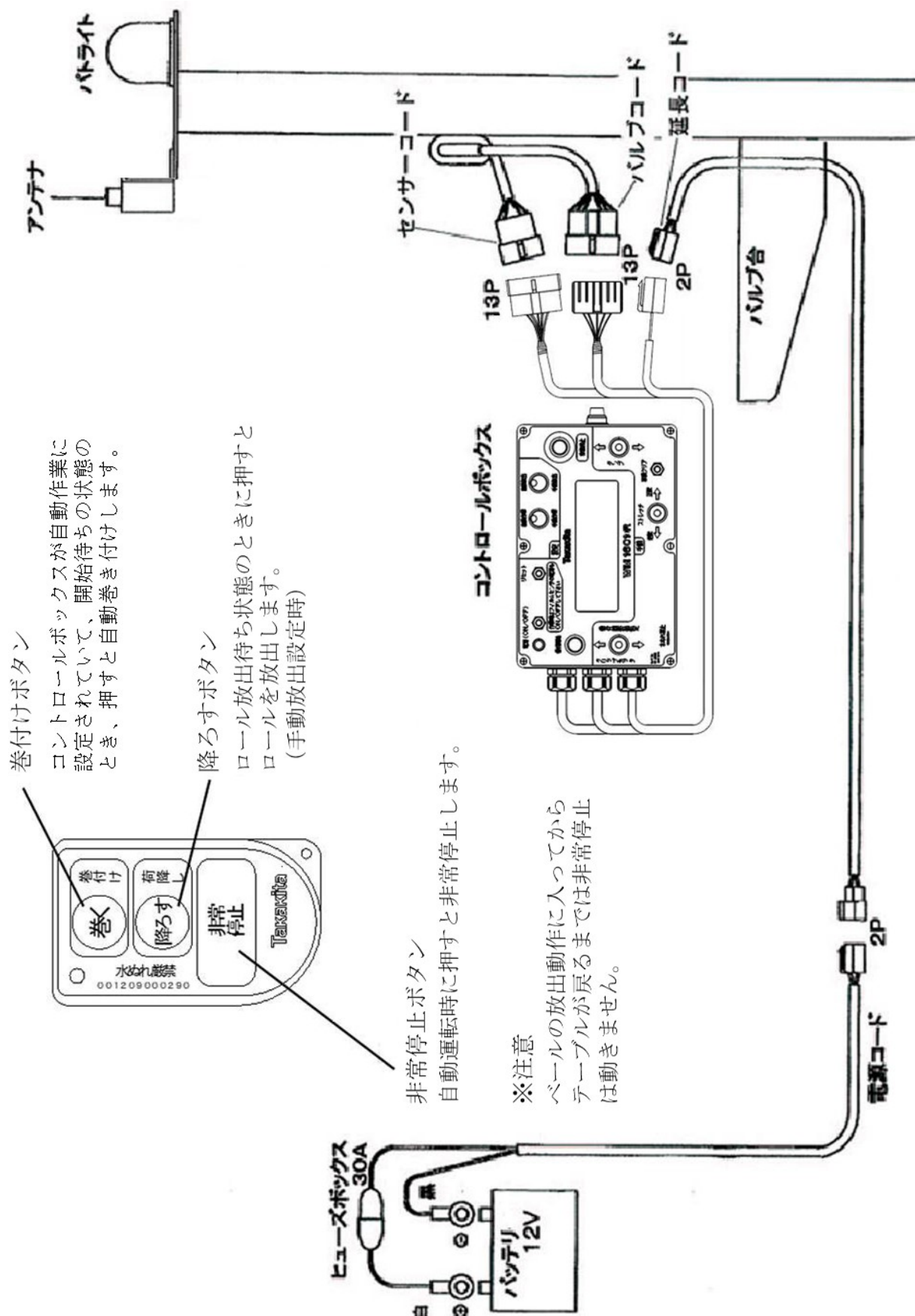
◆ コントロールボックス



各部の名称とはたらき

◆電装全体

電気関係接続方法



トラクタへの装着

警告

- トラクタへの本機の装着は平坦で安定した場所で行ってください。
 - ロワーリンクへの装着はトラクタの動きに十分注意し、二人以上の共同作業では、お互いに声を掛け合うなどして、安全を確かめ合いながら作業してください。
- 以上のことを守らないと傷害発生の恐れがあります。

1. ロワーリンクへの装着のしかた

◆ロワーリンクの装着順序

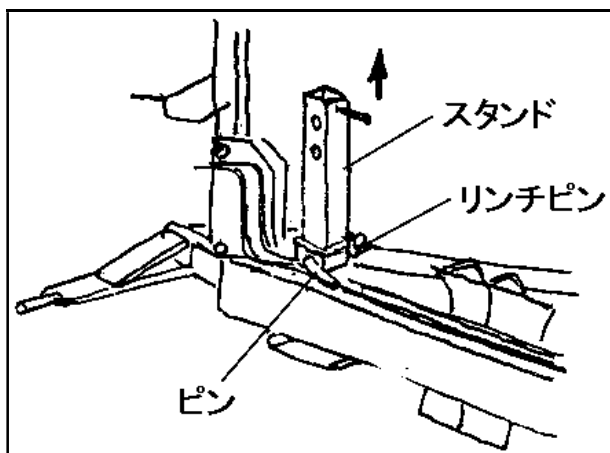
左のロワーリンク、右のロワーリンクの順序で取り付けてください。
カテゴリⅡのロワーリンクに装着の場合、付属のカラーを取り付けしてください。

◆チェックチェーンで横振れ調整

運搬時及び作業時、本機の横振れを防止するために、チェックチェーンでトラクタ中心に本機中心が一致するように左右均等に固定してください。

◆スタンドを上げる

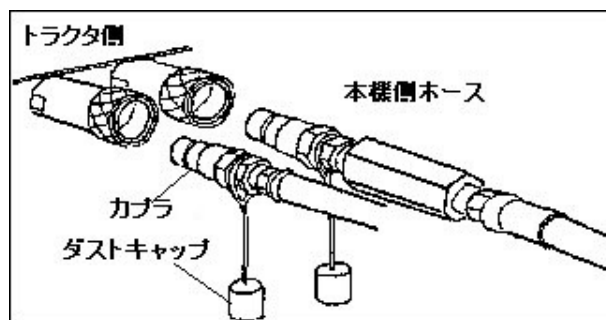
トラクタのロワーリンクを少し上げて、スタンドを持ち上げ移動位置にセットしてください。



2. 油圧ホースの接続

◆接続は残圧を抜いてから

- ①トラクタのエンジンを停止し、トラクタの油圧レバーを動かして残圧を抜いてください。
- ②油圧ホース（2本）をトラクタの複動カプラに確実に接続してください。



◆離脱する時も残圧を抜いてから

注意

- カプラ接続時はカプラ部分をきれいに拭き取り、ゴミなどのない状態で確実に接続してください。
ゴミの付着及び不確実な接続は、油圧系統のトラブルの元になります。
- 油圧ホースをトラクタから外した時は、必ず付属のダストキャップをカプラに差し込み、傷を付けないようにしてください。

注意

油圧の使用流量は20～25 L/分です。
必要以上にエンジンの回転を上げないでください。

トラクタへの装着

3. コントロールボックスの接続

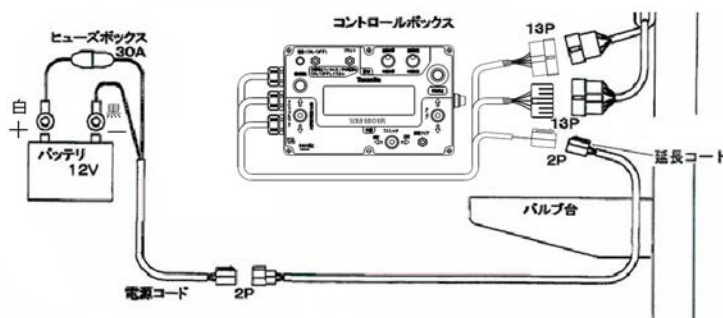
◆電源はトラクタのバッテリーから取ります

- 接続できるバッテリーの電源は12Vです。

※24Vのバッテリーに接続しないでください。間違って接続すると、コントロールボックス内部の機器が破損します。

●電源コード

- ・白色線はバッテリーの(+)への接続
- ・黒色線はバッテリーの(-)への接続



注意

- (+) (-) の接続を間違えると、コントロールボックスの電源が入りません。
(電源ランプが点灯しません。)
- 電圧不足のバッテリーは誤作動の原因になります。十分に充電したバッテリーを使用してください。(許容 DC 10.5 ~ 13.5V)



注意

- 接続の順序は(+)側から行ってください。
- 取り外す時は(-)側から行ってください。
- 逆にすると、火花が飛び危険です。

◆コントロールボックスの取り付け

裏側に永久磁石がついています。ボックススペースにセットしてください。

◆配線の接続

電源コードの延長コードとセンサーコード、バルブコードをコントロールボックスに接続してください。

◆電源ONの確認

電源をONにするときは、電源スイッチを押してください。電源がONになると電源ランプ点灯します。

電源をONからOFFにする時は、再度電源スイッチを押してください。電源がOFFになると電源ランプが消灯します。

電源が入らないときは、コントロールボックス内のヒューズ、電源コードのヒューズが切れていないか、バッテリーの(+)と(-)が逆になっていないか、コネクタがきちんと差し込まれているかを確認してください。

長期間使用すると、電源コードのヒューズ部分が腐食して電気が流れない場合があります。腐食防止のため、グリスの塗付をお勧めします。

トラクタへの装着

4. 送信機の取扱い

インジゲータランプ

押しボタンスイッチを押すと点灯する

巻付けスタート

荷卸し

非常停止



電池 : CR2032

電池の交換はコインなどで裏ブタを開けて行います。

注意

押しボタンスイッチを押したとき、インジケータランプが点灯しない場合は、電池が寿命ですので新しい電池に交換してください。

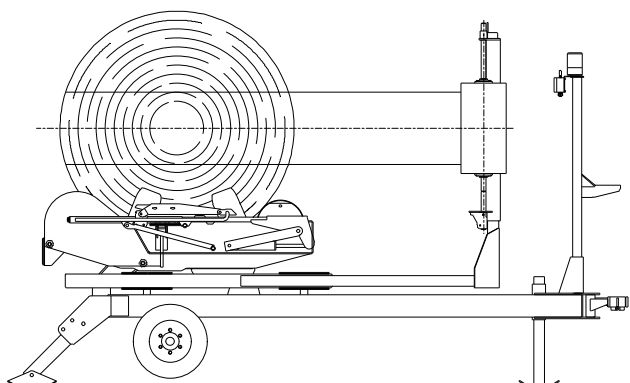
！ 注 意

受信機と送信機はセットになっています。他のものとはペアリングを行わないと操作できません。(受信機と送信機およびフィルムセンサボックスに貼ってあるNo. の同じ物がセットです。)

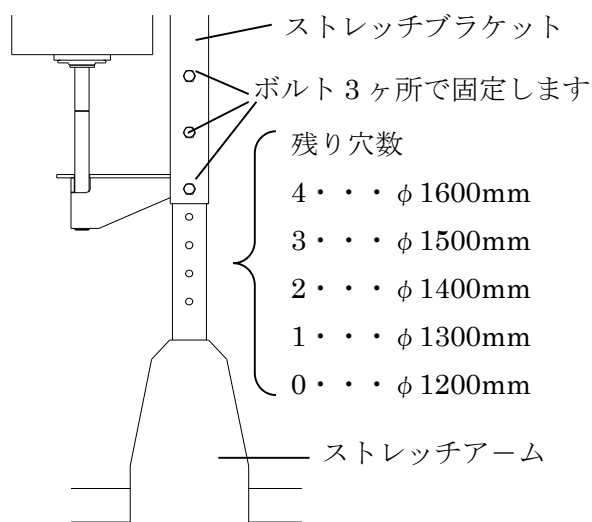
運転に必要な装置の取扱い

1. ストレッチブラケットの高さ調節

フィルムがベールの中心に一致するようにストレッチブラケットの位置を調節してください。



ストレッチアームの残り穴数を参考に、ストレッチブラケットの位置をベールサイズに合わせてください。

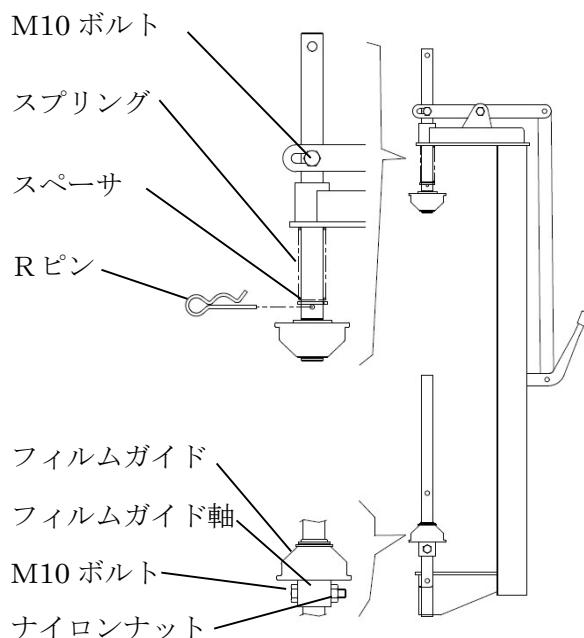


2. フィルムサイズ変更時の組替え

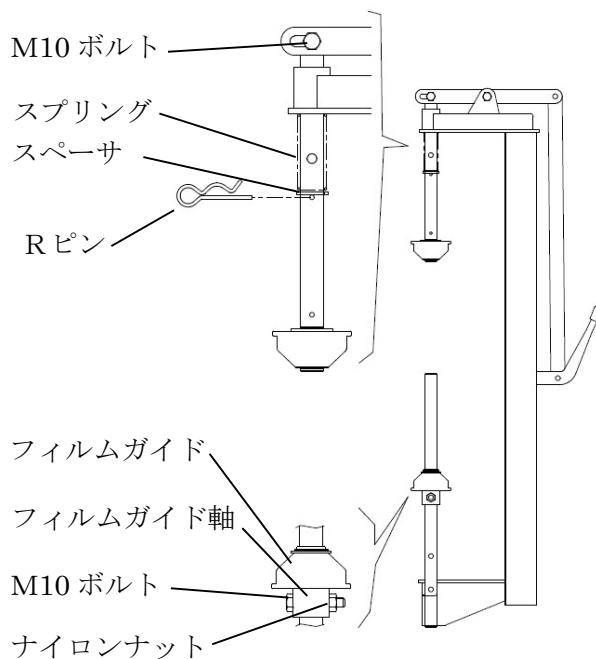
使用するフィルムサイズを変更する場合は部品を組み替える必要があります。
(工場出荷時は500mm仕様です)

◆フィルムガイドの高さ変更

①フィルム幅750mmの場合



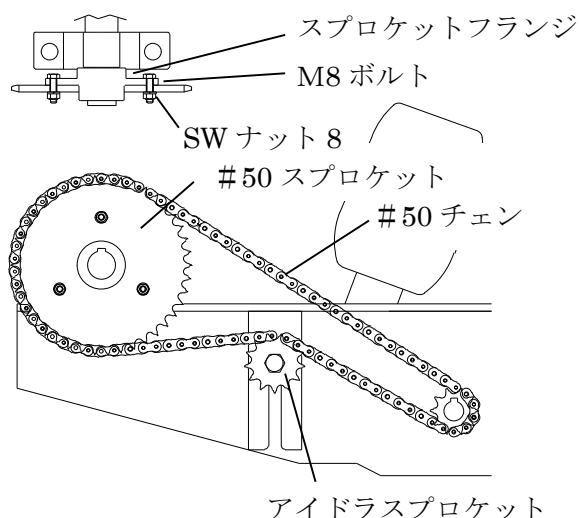
②フィルム幅500mmの場合



上図①②に示すようにフィルムサイズに応じた位置に部品を組み替えて下さい。

運転に必要な装置の取扱い

◆ テーブルの速度変更



テーブルローラ後のスプロケット及びチェンをフィルムサイズに応じて組み替えて下さい。

- ① フィルム幅 750 mm の場合
スプロケット #50-T42
ローラーチェン #50×86 L

- ② フィルム幅 500 mm の場合
スプロケット #50-T64
ローラーチェン #50×100 L

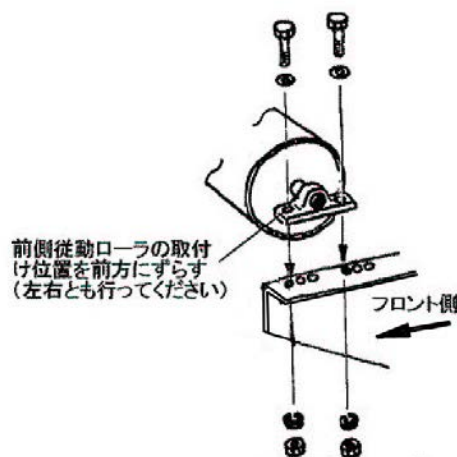
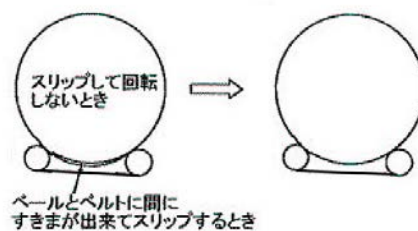
工場出荷時は 500 mm 仕様になっています。750 mm 仕様のスプロケットは梱包しています。

⚠ 注意

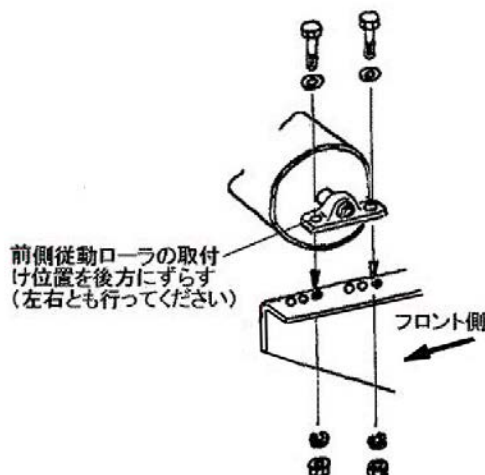
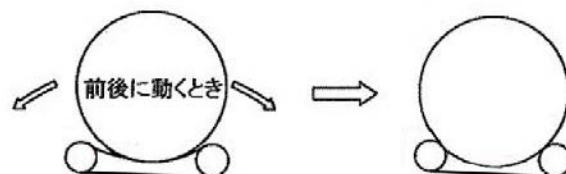
スプロケットをフランジに組み付ける際はフランジ側から M8 ボルトを穴に通して下さい。

3. テーブルベルト間隔の調整

- ◆ $\phi 1500$ mm 以上の大径ベールでベルトがスリップする時は、ベルト間隔を広げてください。



- ◆ $\phi 1250$ mm 以下の小径ベールでベルトの上でベールが前後に動くときは、ベルト間隔を狭めてください。



運転に必要な装置の取扱い

4. グリップカッター・ナイフ保護カバーの取外し

工場出荷時、ナイフには危険防止のため、保護カバーがついています。使用前に取外してください。

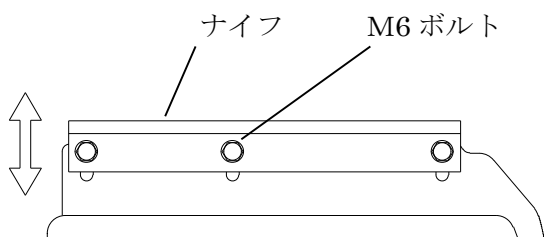
！ 注意

ナイフ類は絶対に素手で触れないでください。
必ず手袋など保護具を装着してください。

5. フィルム切断具合の調整

グリップカッターによるフィルム切断具合が良くないとき、次の調整をしてください。

- ◆ フィルムを挟む前に切れて抜けてしまうときは、ナイフを下げてください。
- ◆ フィルムの切れが悪く放出時にフィルムを引っ張ってしまうときは、ナイフを上げてください。



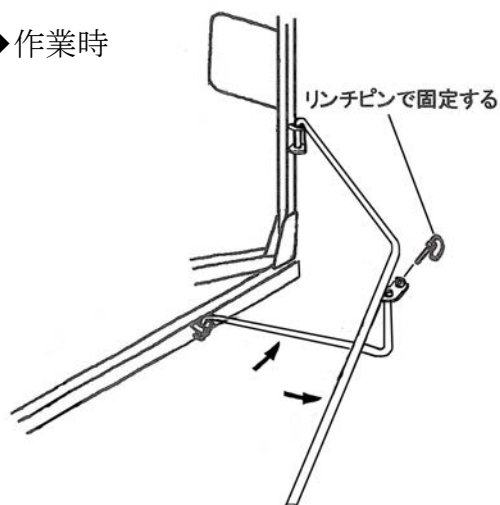
！ 注意

ナイフ類は絶対に素手で触れないでください。
必ず手袋など保護具を装着してください。

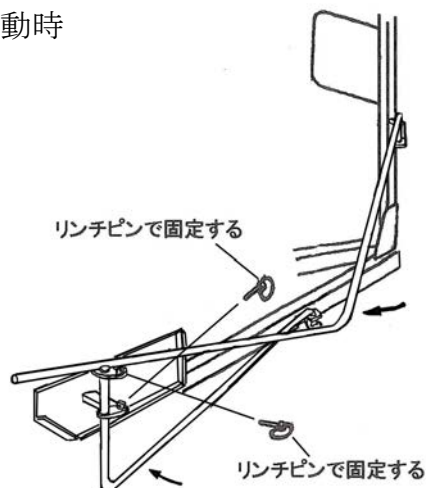
6. 安全ガードの取扱い

作業時には安全ガードを広げ、移動時には安全ガードをたたんでください。

◆ 作業時

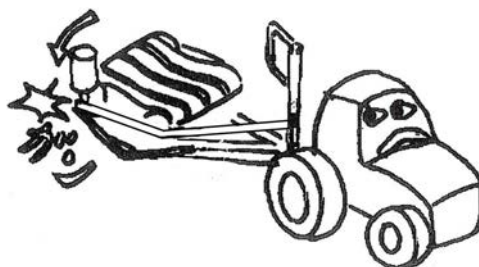


◆ 移動時



！ 注意

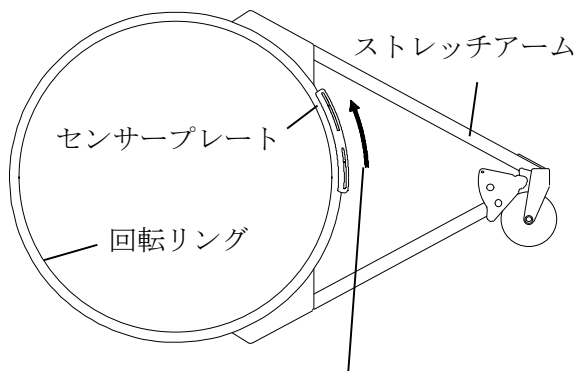
安全ガードをたたんだまま、ストレッチを回さないでください。
安全ガードが破損します。



運転に必要な装置の取扱い

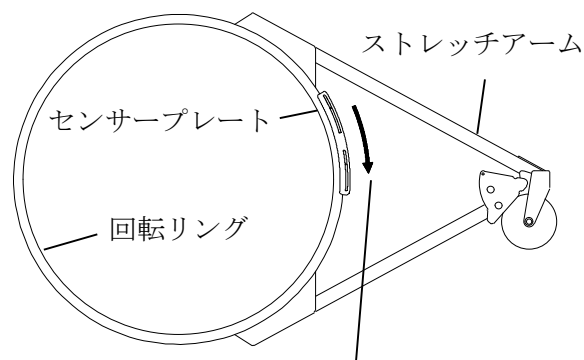
7. 自動時の回転停止位置の調整

- ◆ストレッチが回りすぎて止まり、ダンプ時フィルムが本機に当たる場合。



ボルトをゆるめて反時計方向に
ずらし停止を早める

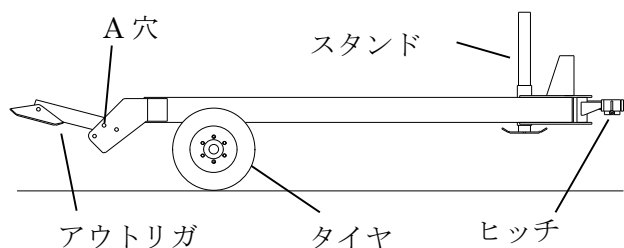
- ◆ストレッチの停止が早く、グリップカタでフィルムが完全に束ねられない場合。



ボルトをゆるめて時計方向に
ずらし停止を遅らせる

8. アウトリガの設置

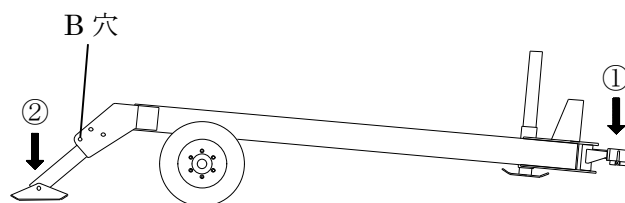
- ◆移動時はA穴にピンを通し、アウトリガを固定します。



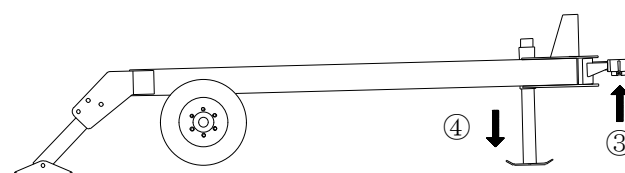
作業時はアウトリガを設置し、機体を安定させた状態で作業を行います。

◆アウトリガの設置方法

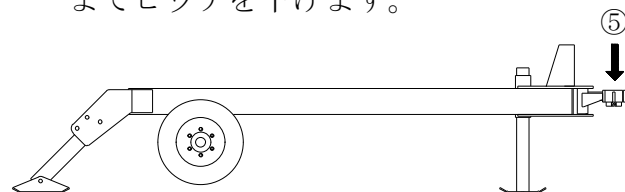
- ①トラクタを操作しヒッチを下げます。
- ②アウトリガを降ろし、ピンをB穴に通します。



- ③トラクタを操作しヒッチを上げます。
- ④スタンドを下げます。



- ⑤トラクタを操作しスタンドが接地するまでヒッチを下げます。



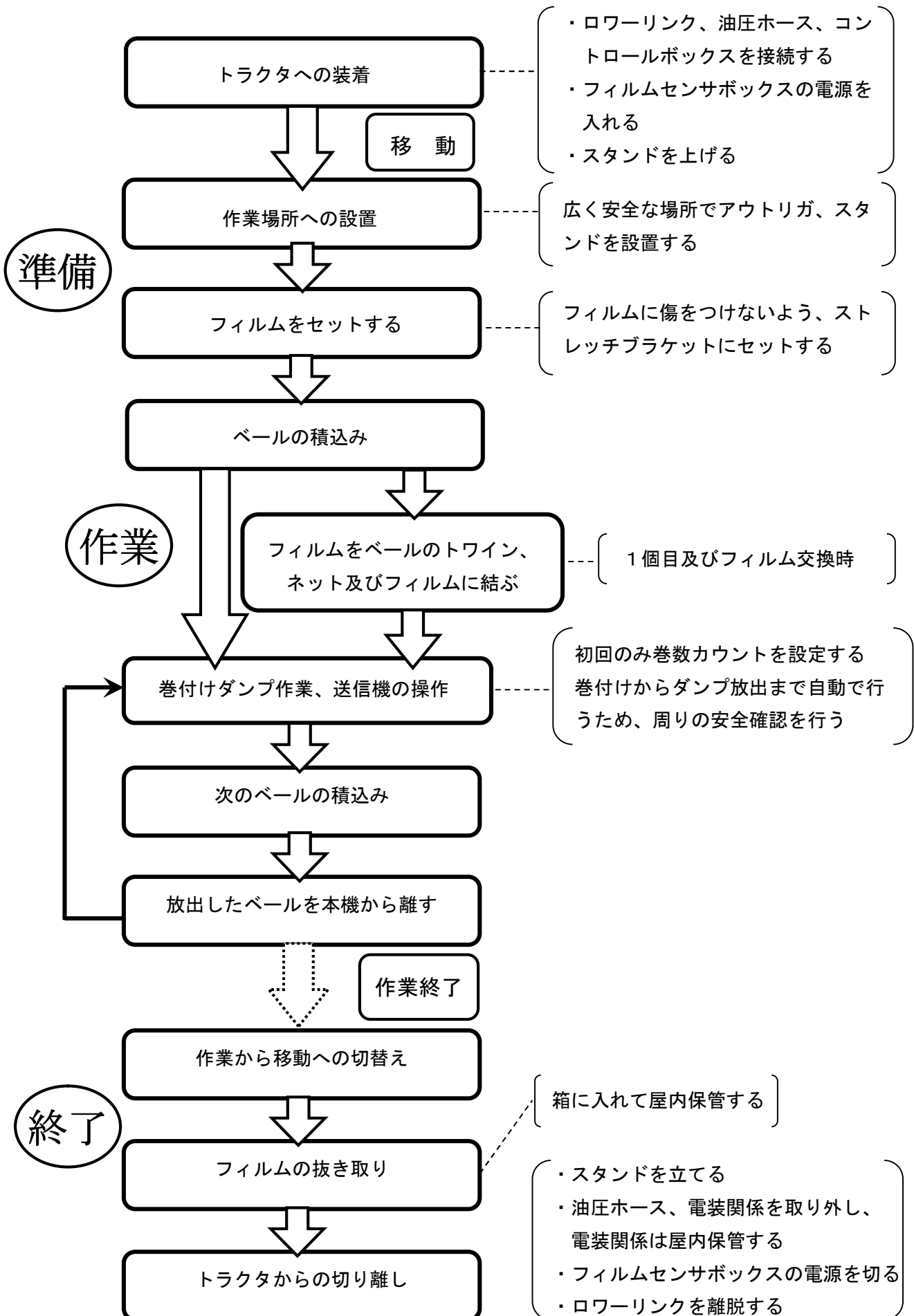
注意

試運転時などの空回しであっても必ずアウトリガとスタンドを設置してから作業してください。

怠ると機械が横転する場合があります。

作業方法

1. 作業手順と要点

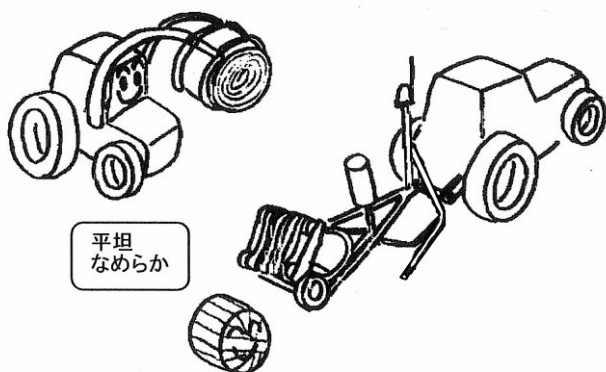


作業方法

2. 作業場所への設置

①作業場所は、ラップしたベールの品質保持ならびに危険防止のため下記のような場所で行ってください。

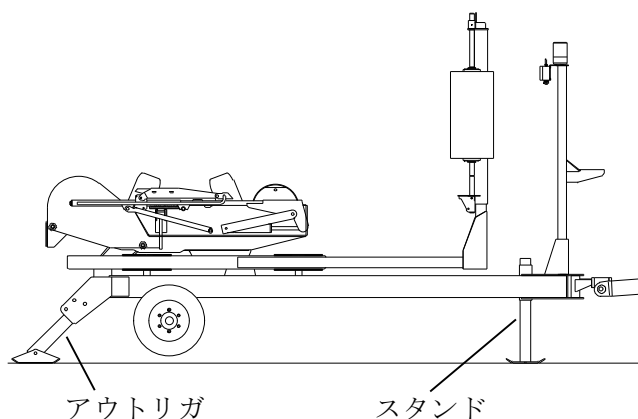
- ・放出したラップベールが転がない、平坦な場所
- ・放出したラップベールのフィルムが傷つかない、なめらかな場所
- ・ベールの積込み、放出に障害のない、広い場所
- ・ベールの積込み、排出を行う作業者が本機を見通せる、障害のない場所
- ・作業中は作業員以外の人や動物が近づかない場所



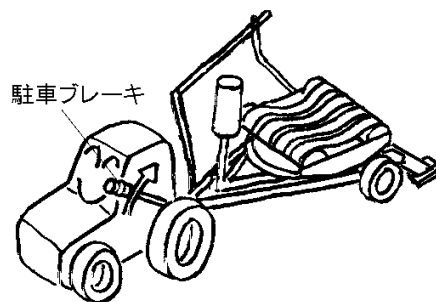
！ 警告

無人運転となるため、作業中は作業員以外の人や動物が作業範囲内に近づかないことを徹底してください。

②アウトリガ、スタンドを設置する。
(P 31 参照)



③トラクタの駐車ブレーキをかける。



！ 注意

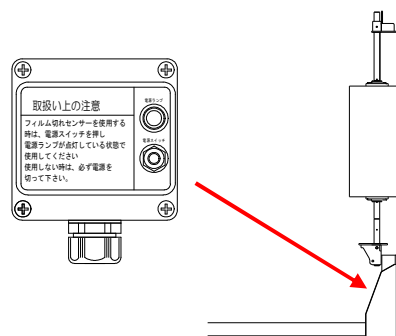
- ・おこたると作業時、本機及びトラクタが慣性力で振れることがあります。
- ・トラクタから切り離しての作業は、本機が慣性力で前後左右に横振れして危険ですので行わないでください。

④各部のグリスアップ状況を確認、足りなければグリスアップ及びグリス塗布する。

注意

グリス切れのまま使用すると、磨耗しやすくなり耐久性が低下します。

⑤ストレッチアームに取り付けてあるフィルムセンサボックスの電源を入れる



注意

電源を入れないと、フィルム切れ自動停止が働きません

！ 警告

フィルムセンサボックスの電源を入切する際は、必ずトラクタのエンジンを止めた状態で行ってください。

作業方法

3. フィルムをセットする

！ 警告

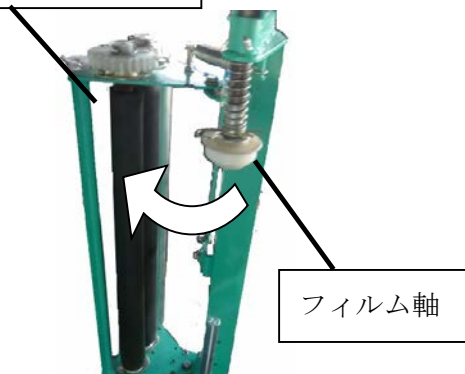
フィルムを本機にセットするときは、コントロールボックスの電源を切るか、非常停止の状態で行ってください。

注意

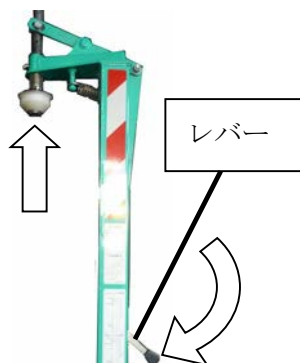
裏面ののりが強いフィルムは使用しないでください。巻付け後、ベール表面がのり面となるので、作業及び運搬時にフィルムがやぶれやすくなります。(オプションの追加ローラを取り付けていただくと、フィルムの裏面がベールの内面になるようにラップすることが可能です) フィルムを本機にセットするときは、コントロールボックスの電源を切るか、非常停止の状態で行ってください。

- ① ゴムローラブラケットをフィルム軸と逆方向に支点越えするまで押します。

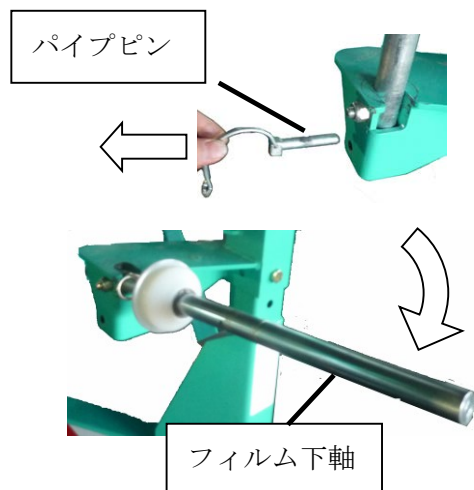
ゴムローラブラケット



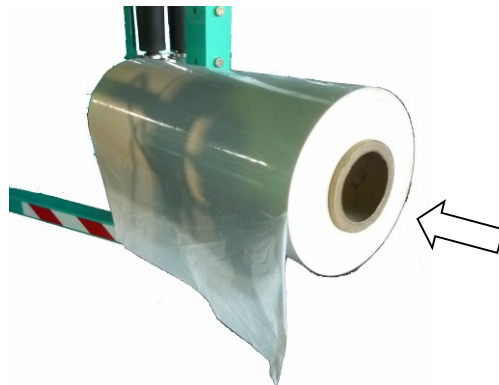
- ② レバーを下げてフィルム上軸を上げた状態で保持します。



- ③ パイプピンを外してフィルム下軸を手前に倒します。



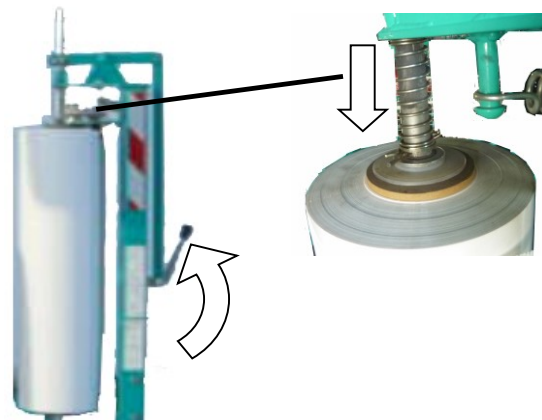
- ④ フィルム下軸にフィルムを差し込みます。



注意

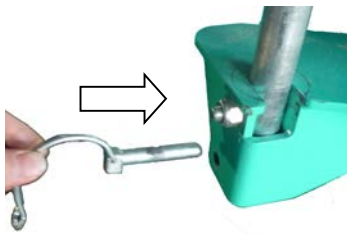
フィルムの巻き方向は、必ず写真の向きにして差し込んでください。

- ⑤ フィルムを起し、レバーを上げてフィルム上軸をフィルムの紙筒に合わせて下げます。

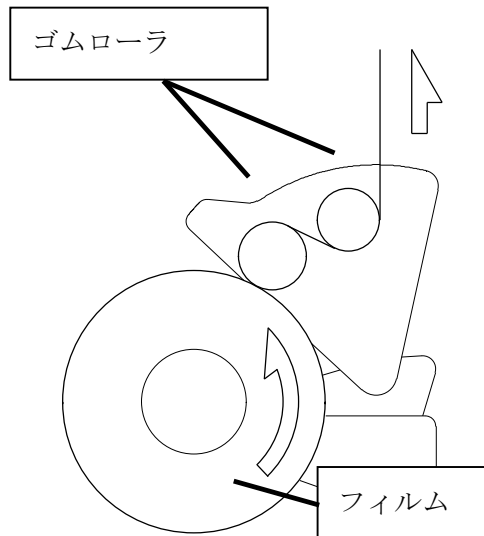


作業方法

⑥パイプピンを組付けます。



⑦フィルムをゴムローラに通して下さい。



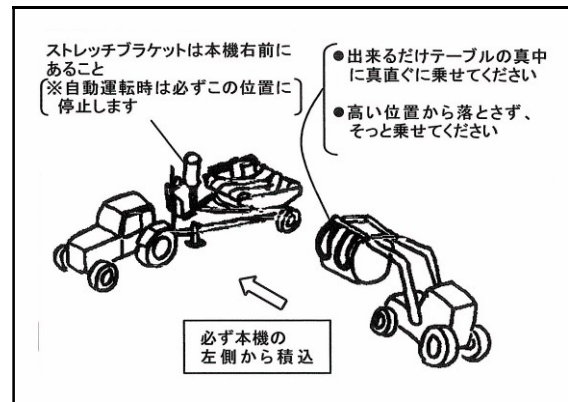
上図のようにフィルムをゴムローラに通して下さい。(上から見た状態です。)

注意

フィルムの取扱いには十分注意してください。特に端部に傷がつくと、ラッピング中に切断します。

4. ベールの積込み

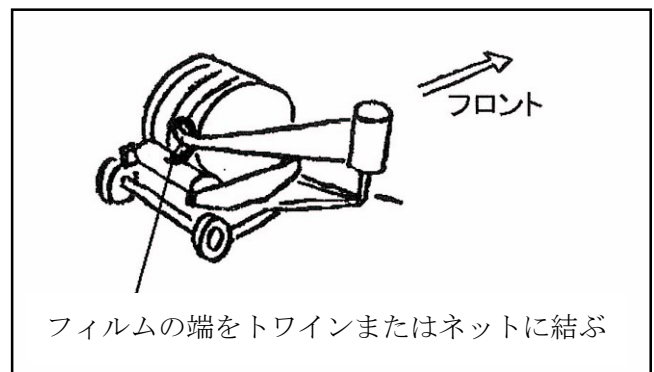
①ベールの積込みは、本機用のトラクタとは別のグリッパ付トラクタで行います。



注意

- ・変形が著しく落下の恐れがあるベールは乗せないでください。落下すると、機械が破損します。
- ・落下の恐れがなくとも変形がある場合は巻付きを確認し、落下の可能性が感じられた場合はすぐに非常停止してください。

②1個目のみフィルムをベールのトワインまたはネットに結ぶ



！ 警告

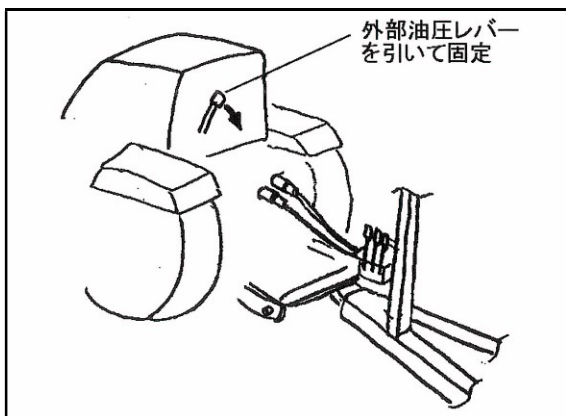
積込みの際はパトライトが消灯していることを確認して下さい

作業方法

5. 巻数設定

フィルムの巻数設定は、ベールサイズならびにフィルムの重ね数によって異なります。実際のベールに手動で巻付け、確認をします。

①トラクタを外部油圧に切替え、本機に油を送ってください。

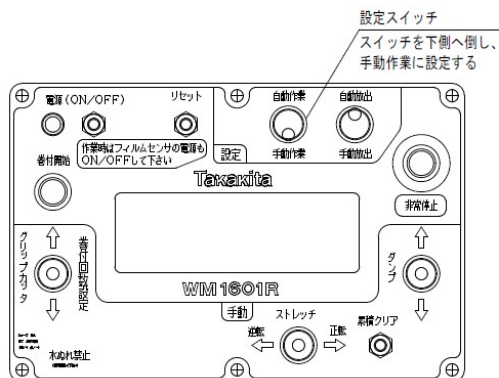


注意

- ・エンジン回転数は最も下げ、アイドリング状態にしてください。
- ・動かない時は外部油圧レバーの引き方向が反対か、カプラの差す位置が反対の可能性あります。カプラの差す位置を確認してみてください。

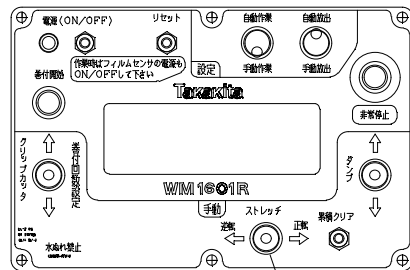
②手動作業に設定します。

自動・手動作業切替の設定スイッチを下側に倒し、手動作業に設定します。

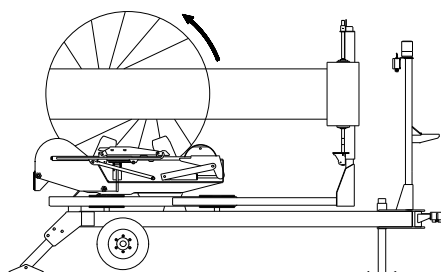


③手動で巻付け

ストレッチスイッチを正転側へ倒すと、フィルムを巻付けます。ベールの草がフィルムで見えなくなるまで巻付けてください。



ストレッチスイッチ
スイッチを正転側へ倒したまま保持し、下図の状態になったら離す
※「手動操作」でないと動きません



警告

- ・ストレッチスイッチを倒すとストレッチが速く回りだします。決して安全ガードより中に入らないでください。
- ・ストレッチスイッチを倒すとバルブレバーが手前側に動きますので注意してください。

④ ③の状態（草がフィルムで見えなくなった状態）が2重巻きとなります。このときの液晶表示の最下段の数字を確認してください。

[例] **液晶表示**

シュドウモード

セッテイ マクスウ : 32 カイ
マクスウ : 16 カイ

最下段の数字 16

作業方法

⑤設定値の算出

④で確認した液晶表示の最下段の数字をもとに、希望する重ね数の設定値を算出してください。

・④の例の場合

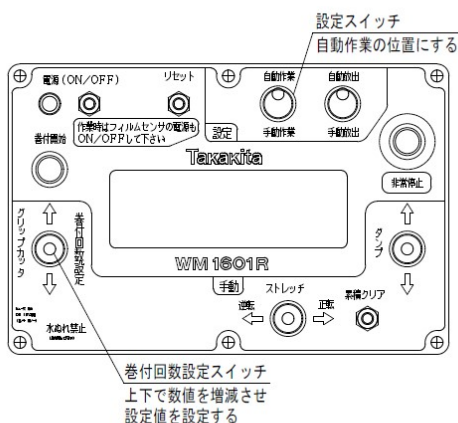
重ね数	設定値
2 重巻	1 6
4 重巻	3 2 (1 6 × 2)
6 重巻	4 8 (1 6 × 3)

この設定値は、本設定するまで忘れないよう記録してください。

⑥残りの巻付けは、「手動作業」のまま設定値まで巻付け、フィルムのグリップカット及びダンプまで行ってください。
(手動作業の使用方法はP 4 5 ~ 4 7 を参照してください。)

⑦巻付回数を設定してください。

自動作業に切替え、巻付回数設定スイッチを上下させて巻き数を⑤で求めた数字に設定してください。



液晶表示

カイシマチ
マクスウ セッテイ カノウ
グリップ ウエ シタ デ セット
セッテイ：1 6 ルイセキ：3

開始待ち画面

セッテイ：3 2
ルイセキ：3

設定値を変更します

巻付回数設定画面

カイシマチ
マクスウ セッテイ カノウ
グリップ ウエ シタ デ セット
セッテイ：3 2 ルイセキ：3

設定値が反映されます

注意

- ・巻付回数の設定可能範囲は8 ~ 5 0 です。
 - ・設定値は自動状態で送信機のスタートスイッチもしくはコントロールボックスの巻付開始スイッチを押して自動運転したとき記憶され、電源を切っても記憶され続けます。
- 従って、設定値を変更する場合以外は、再設定の必要はありません。

作業方法

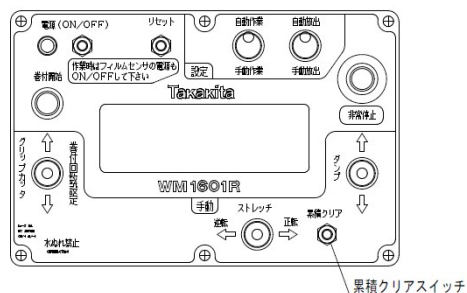
- ◆自動で巻付けたときは、累積ベール数が表示されます。

開始待ちの状態のとき、液晶表示の最下段の「ルイセキ」に累積個数が表示されます。

- ◆累積数を「0」クリア

累積数は電源を切っても記憶します。

「0」に戻したいときは、開始待ちの状態で累積クリアスイッチを押してください。



液晶表示

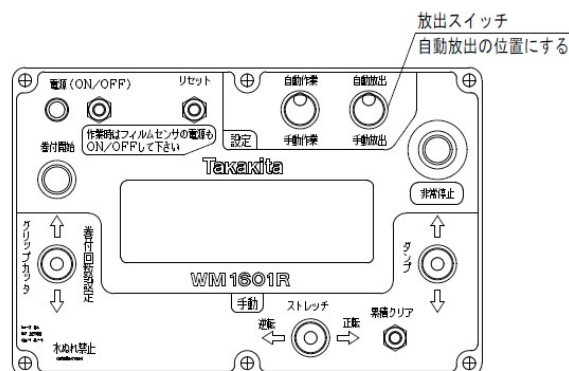
カイシマチ
マクスウ セッテイ カノウ
グリップ ウエ シタ デ セット
セッテイ：32 ルイセキ：0

注意

- ・手動巻付けした場合、累積数は加わりません。
- ・巻付け途中で非常停止した後、再度巻付けスタートした場合の累積数は、「1」カウントとなります。
- ・累積数が999を超えると、0に戻ります。これは故障ではありません。

6. 自動放出と手動放出の設定

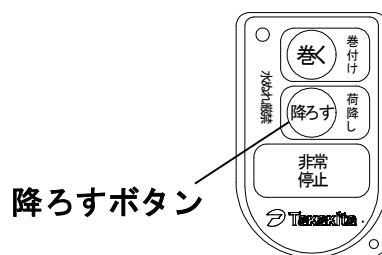
- ◆通常は「自動放出」で作業してください。



- ◆手動放出する場合は以下の手順で設定、操作を行います。

- ①開始待ちの状態で放出スイッチを「手動放出」にしてください。
この場合、ラップ作業が終わると放出待ちの状態になります。
- ②任意のタイミングで放出スイッチを「自動放出」に倒すと、ベールを放出しテーブルが元の位置まで戻ります。
- ③手動放出を続ける場合は、再度放出スイッチを「手動放出」にしてください。

「手動放出」操作は、送信機の降ろすボタンでも可能です。

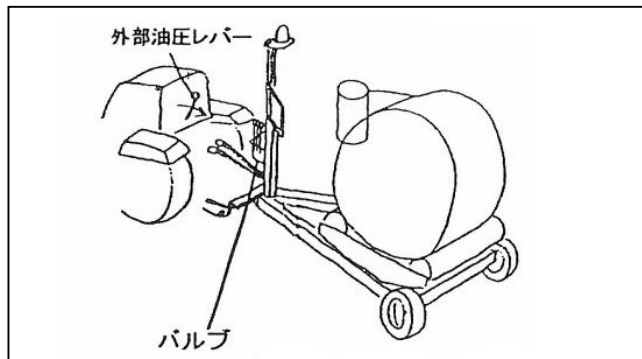


作業方法

7. 無線による自動巻付け

通常はコントロールボックスを自動作業に設定し、送信機を操作して巻付けを行います。
手動操作が必要な場合は、P 45～47を参照してください。

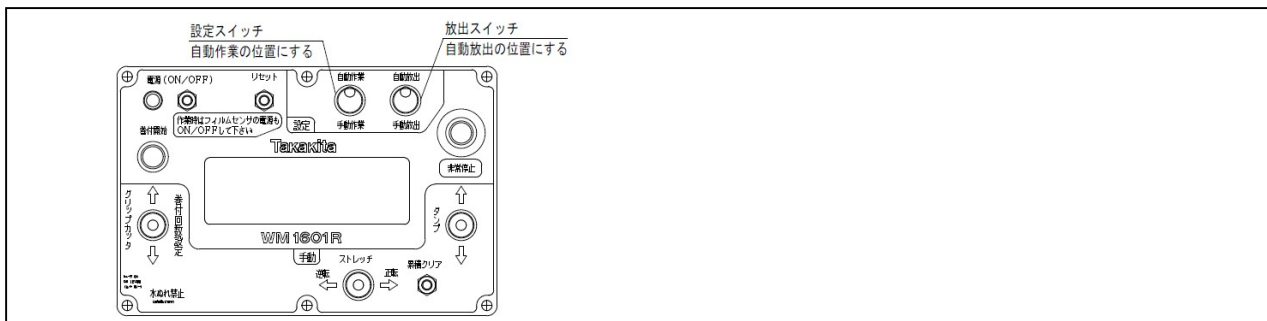
①トラクタの外部油圧レバーを操作し、本機に油を送ってください。



注意

- ・油圧使用流量は20～25リットル／分です。必要以上にエンジン回転を上げないでください。
- ・エンジン回転を下げてストレッチアームが30回転／分以下になるように調整してください。
- ・油圧の流量を調整するときはアイドリングから行ってください。必要以上に回転を上げると油圧の温度が上がるため、なるべく低速回転で使用してください。

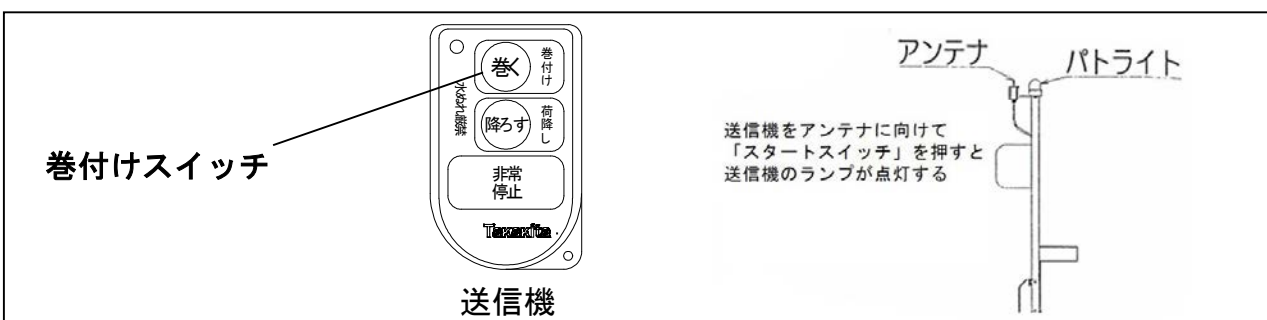
②設定スイッチを自動作業、放出スイッチを自動放出に設定してください。



放出スイッチを手動放出にすると、送信機により、手動放出を行うことが可能です。

③作業範囲内の安全と障害物がないことを確認し、送信機の巻付けスイッチを押してください。

パトライトが回り、ストレッチアームが回転するのを確認してから離してください。

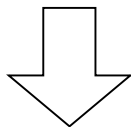


注意

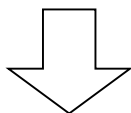
操作できる距離は30m程度ですが、送信機とアンテナの間に障害物があると操作できる距離が短くなります。操作はアンテナが見通せる場所で、前にキャビンの柱およびローダーム等の障害がない位置で送信機をアンテナに向けてください。（ガラスは問題ありません。）

④次の作業を自動で行います。

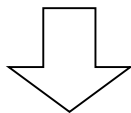
パトライトが回転し、ストレッチアームが低速で回り始めます。



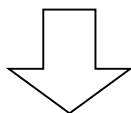
5秒後、ストレッチアームの回転が速くなります。



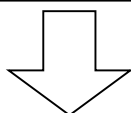
ストレッチアームが2回転後（巻数が“2”）、グリップカッタが少し上下し、挟んだフィルムを離します。3回転、4回転目も同様の動作をします。



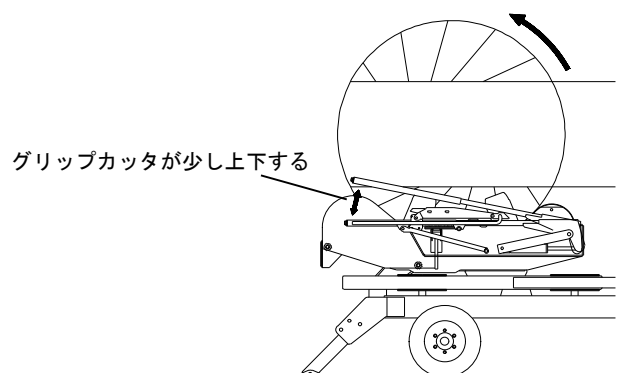
設定した巻数の1つ前（例：設定値32のときは“31”）になったとき、ストレッチアームが低速回転になります。



低速回転でストレッチアームが半回転したとき、グリップカッタが上昇します。



次項へ



液晶表示

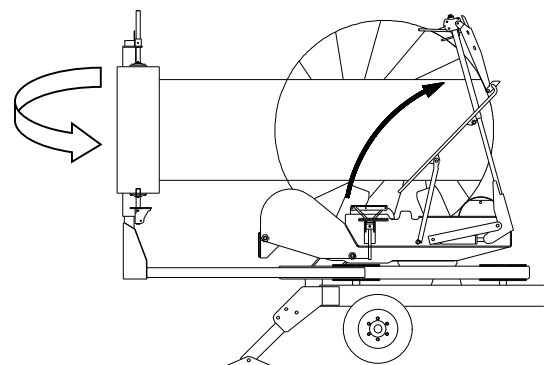
ラッピング チュウ

セッテイ マクスウ：32カイ
マキ スウ : 2カイ

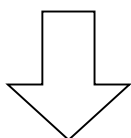
液晶表示

ラッピング チュウ

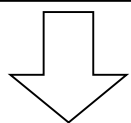
セッテイ マクスウ：32カイ
マキ スウ : 31カイ



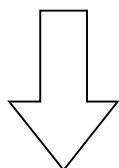
作業方法



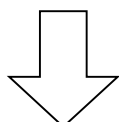
低速回転でさらに半回転した後、ストレッチアームが停止します。ストレッチアームは後のベール放出、積込みの障害にならない位置に自動停止します。



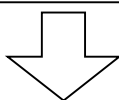
ストレッチアームの停止と同時にグリップカッターが下降し、フィルムをナイフに押さえつけてフィルムを切断します。



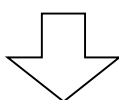
1秒後テーブルがダンプしてベールを放出します。



数秒後テーブルが下がり積込み状態となり、パトライトが消灯します。それと同時にコントロールボックスは「開始待ち」の状態になります。

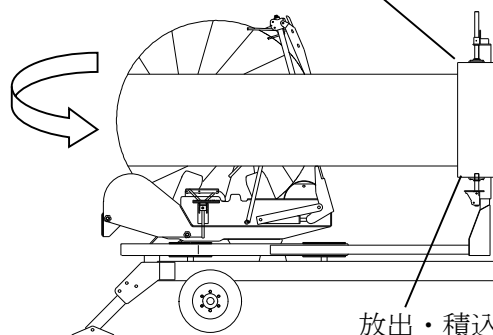


次のベールをテーブルに積込みます。



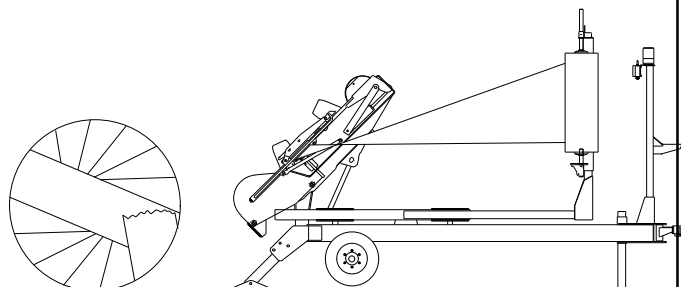
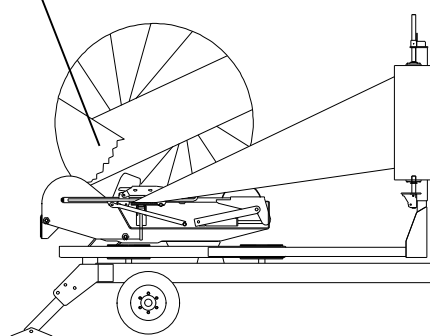
次項へ

ストレッチアームが停止する

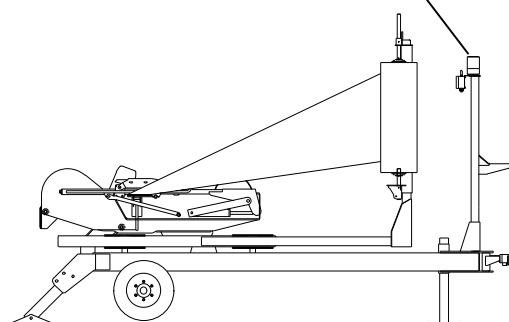


放出・積込みの障害にならない位置に止まる

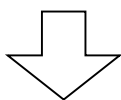
フィルムを挟み片側を切断する



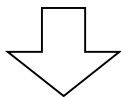
パトライトが消灯する



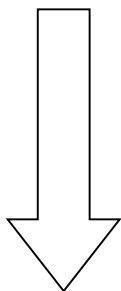
作業方法



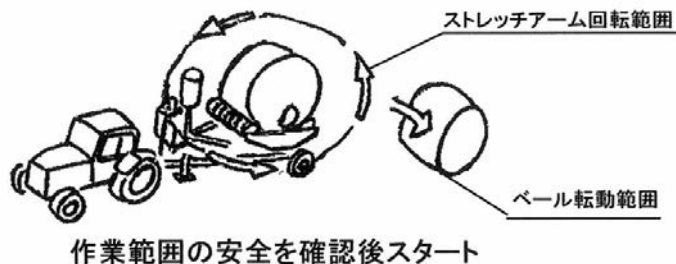
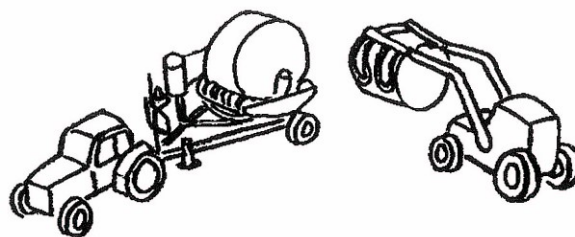
放出されたベールをグリッパ付のトラクタで本機から離す。



安全を確認して送信機のスタートスイッチを押し、ベールを同様に巻付け放出させる。



繰り返し



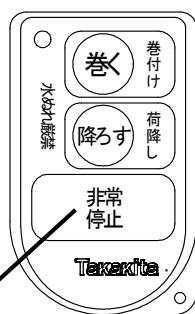
警告

ストレッチアームの回転範囲と放出するベールの転動範囲の安全と障害のないことを確認してから巻付けスイッチを押してください。

注意

落下の恐れのある変形ベールを巻付けるときは、作業が見渡せる場所にとどまり、落下の可能性を感じた場合はすぐに送信機の非常停止スイッチで回転を停止させてください。

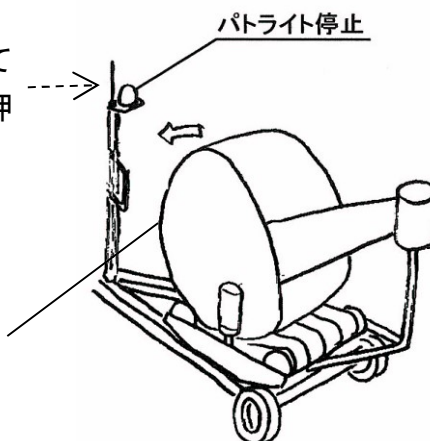
送信機



非常停止スイッチ

送信機をアンテナに向けて「非常停止スイッチ」を押すと停止します。

落ちそうになったら巻付けを止め、そのまま放出させてください。



作業方法

警告

パトライトが回転している間は自動運転中のため、絶対に作業範囲内に入らないでください。何らかの故障があり動いていないときでも、パトライトが回転していると急に動き出すことがあります。確認等のため作業範囲内に入るときは非常停止スイッチを押し、パトライトが停止したことを確認してから行ってください。

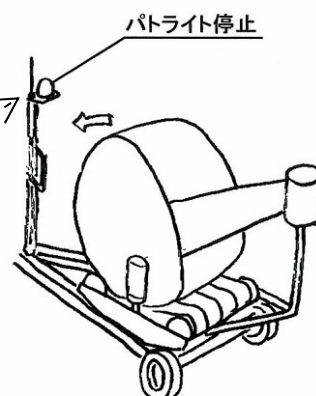
※本機が動いていなくてもパトライトが回転している間は作業範囲内に入らないこと。

送信機



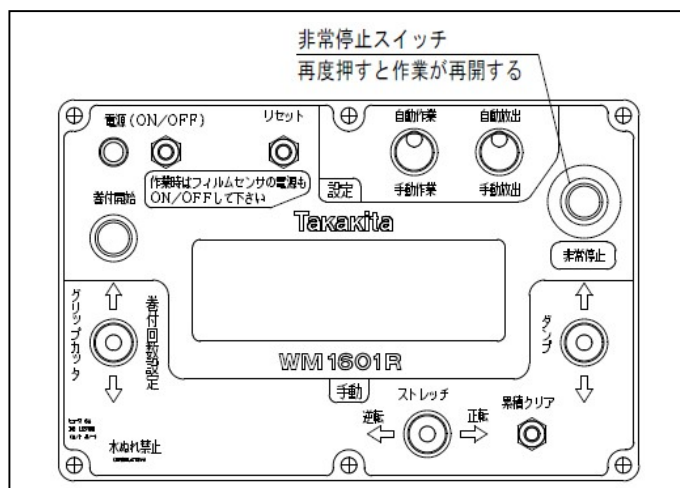
非常停止スイッチ

作業範囲内に入るときは「非常停止スイッチ」を押し、パトライトが停止してから行ってください



④巻付け中にフィルムがなくなったり、切れたりした場合。

フィルム切れセンサーが作動し、ストレッチアームが停止します。停止と同時にパトライトも停止します。フィルムの補充を行ったあと、コントロールボックスの非常停止スイッチを押すと残り作業を通常通り自動巻付けします。

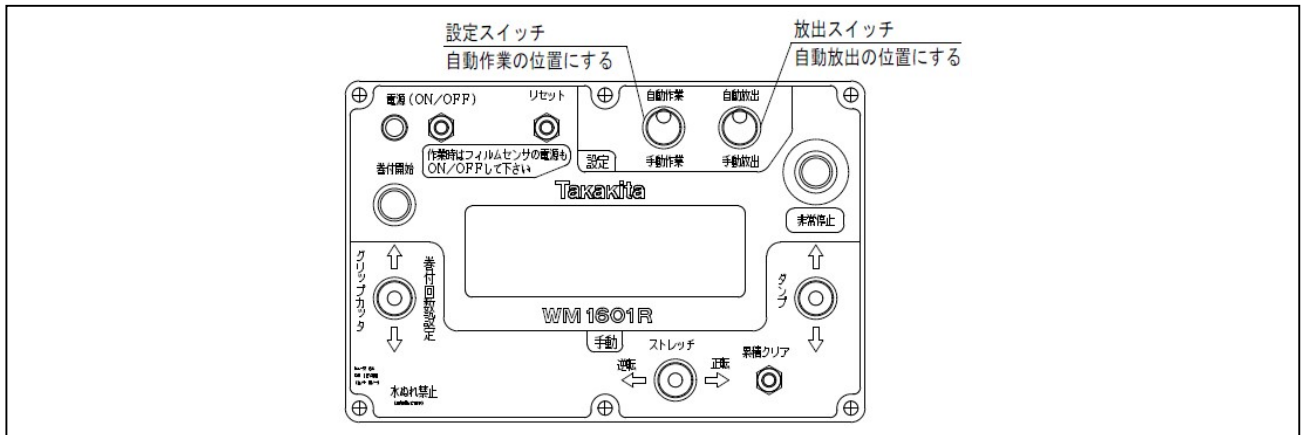


作業方法

8. コントロールボックスによる自動巻付け

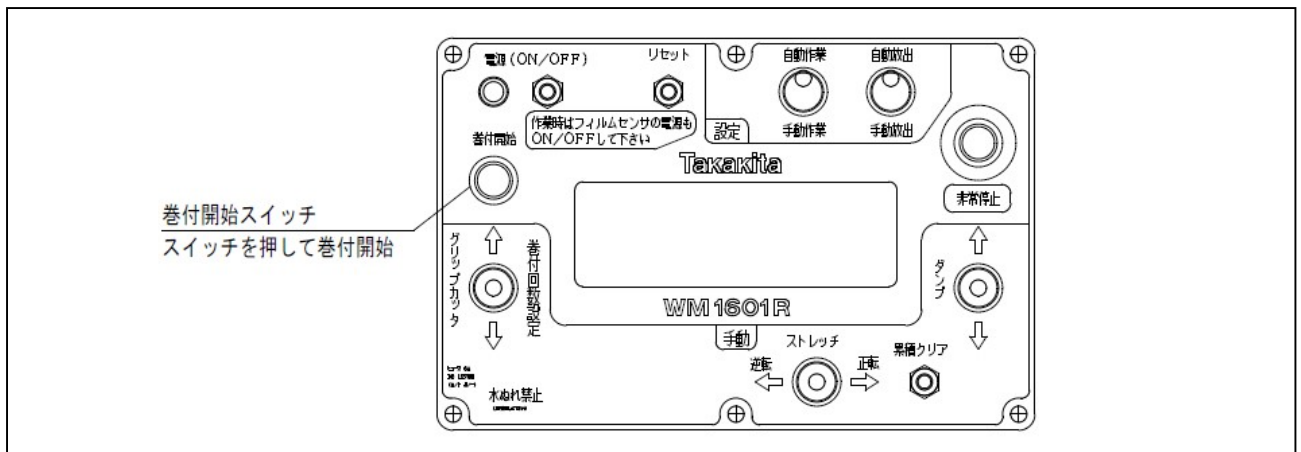
コントロールボックスでの操作も送信機の場合と同じです。

- ①設定スイッチを自動作業にし、放出スイッチを自動放出にする。



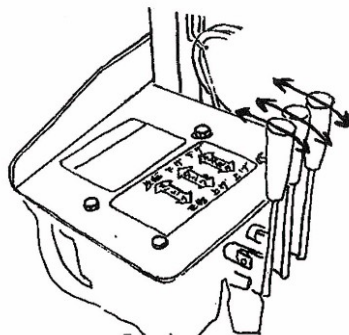
手動放出の場合はP 3 8「6. 自動放出と手動放出の設定」を参照してください。

- ②開始待ちの状態になっていることを確認し、巻付開始スイッチを押してください。
「7. 無線による自動巻付け ④」と同様の作業を行います。



⚠ 注意

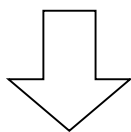
動きに合わせてバルブの手動レバーが自動的に動きますので、注意してください。



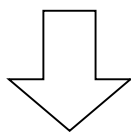
作業方法

9. コントロールボックスによる手動巻付け

コントロールボックスを手動作業に設定します。



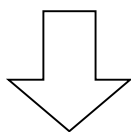
ベールを積込みます。
(P 35を参照してください。)



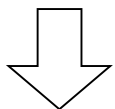
A

ストレッチスイッチを正転側に倒し、表示の巻数が3～4になるまでストレッチアームを回転させ、ストレッチアームがほぼ前側の位置で止めます。

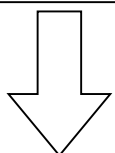
P 47から



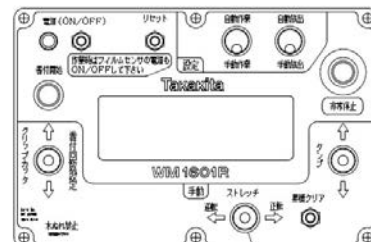
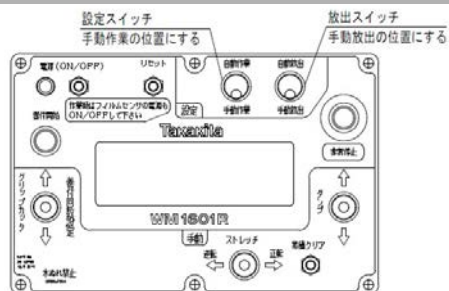
グリップカッタスイッチを上側に操作し、グリップカッタを少し上げ、グリップカッタからフィルムを離します。その後、グリップカッタスイッチを下側に倒し、グリップカッタを下げます。



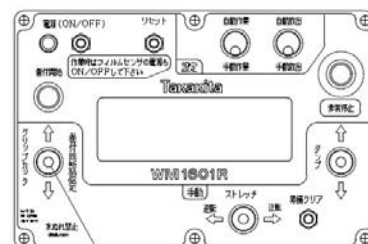
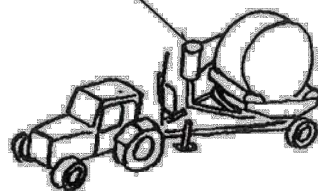
ストレッチスイッチを正転側に倒して保持し、巻数が設定値になるまでストレッチアームを回転させ、ストレッチアームがほぼ後側の位置で止めます。



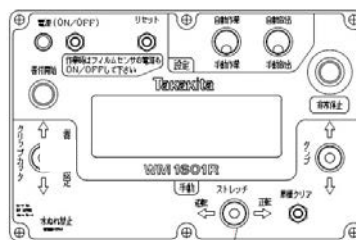
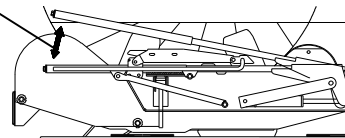
次項へ



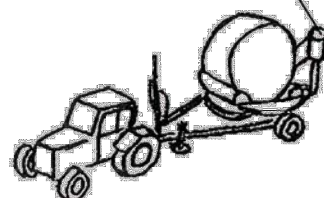
ストレッチアーム前側で止める
ストレッチスイッチ
スイッチを正転側へ倒したまま保持し、巻数が3～4で下図の状態になったら離す
※「手動操作」でないと動きません



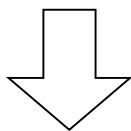
グリップカッタスイッチ
グリップカッタが上下する



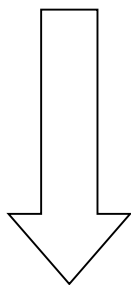
ストレッチスイッチ
スイッチを正転側へ倒したまま保持し、設定巻数で下図の状態になったら離す
※「手動操作」でないと動きません
ストレッチアーム後側で止める



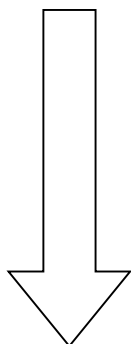
作業方法



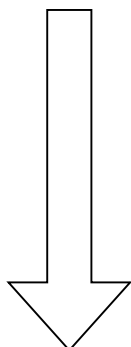
グリップカッタスイッチを上側に倒し、グリップカッタを最大に上げて止まるまで保持します。



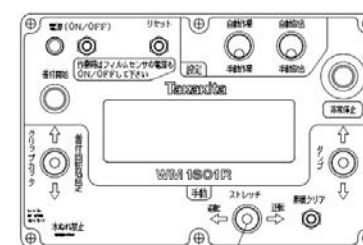
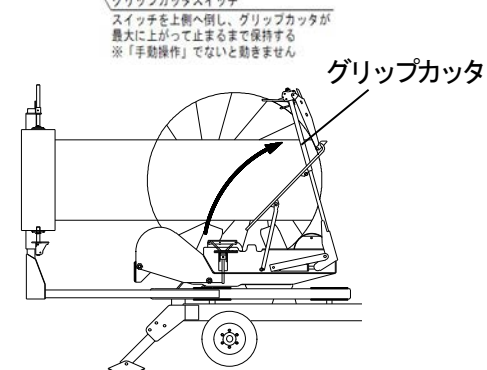
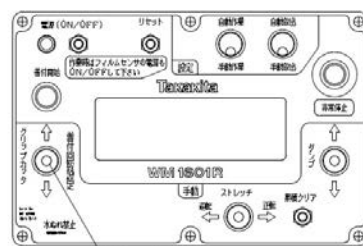
ストレッチスイッチを正転側に操作し、フィルムがグリップカッタにかかるまでストレッチアームを回転させます。



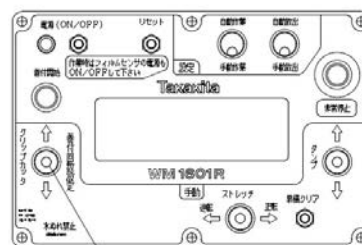
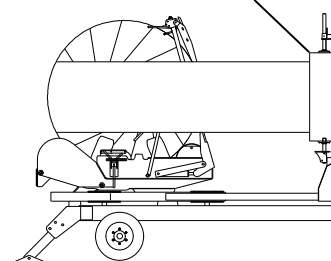
グリップカッタスイッチを下側に倒し、グリップカッタが下がって止まるまで保持してフィルムを切断します。



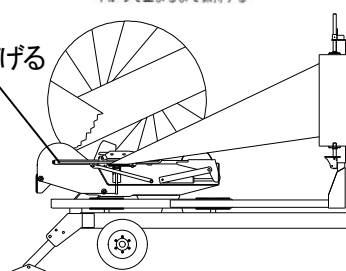
次項へ



フィルムがグリップカッタに少しかかる位置でとめる

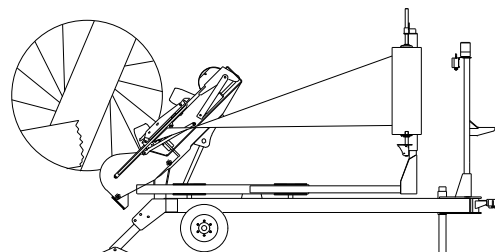
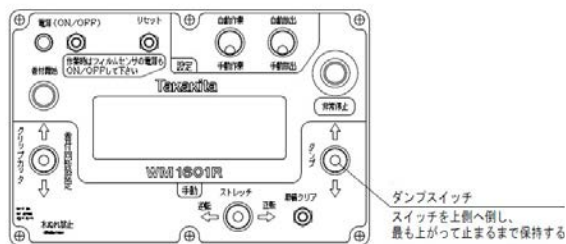


グリップカッタを下げる



作業方法

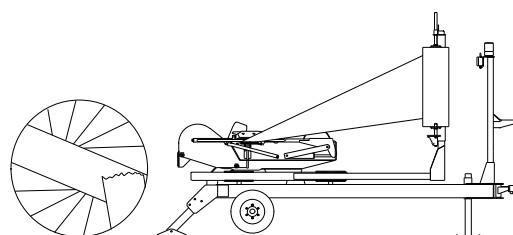
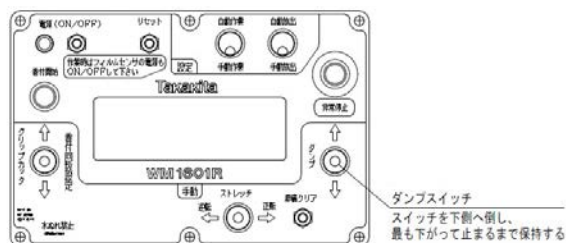
ダンプスイッチを上側に倒し、ベールを放出してください。



ダンプスイッチを下側に倒し、テーブルを元に戻してください。

⚠ 注意

ベールを放出するときは、後方の安全を確認してください。



次のベールを積み込みます。

放出したベールをグリッパ付トラクタで本機から離します。

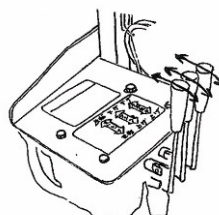
P 4 5 の

A

へ

⚠ 注意

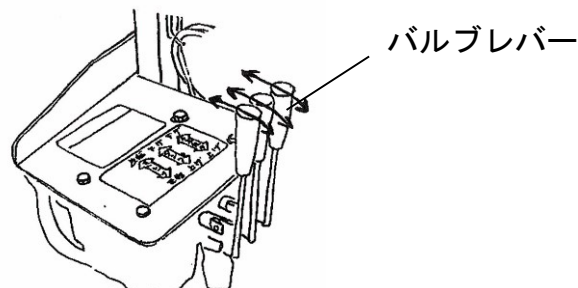
スイッチを押すとバルブレバーも自動的に動きますので、動きに注意してください。



作業方法

10. バルブレバーによる手動操作

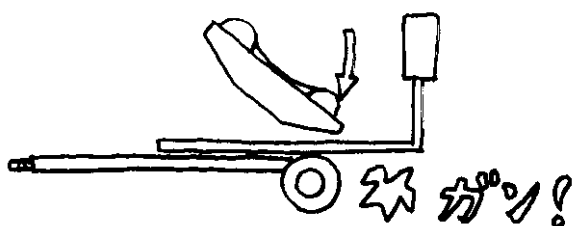
バルブレバーによる操作も可能です。操作はコントロールボックスの手動操作と同じ要領でバルブレバーを操作してください。(操作するにはコントロールボックスの電源をONにする必要があります)



⚠ 注意

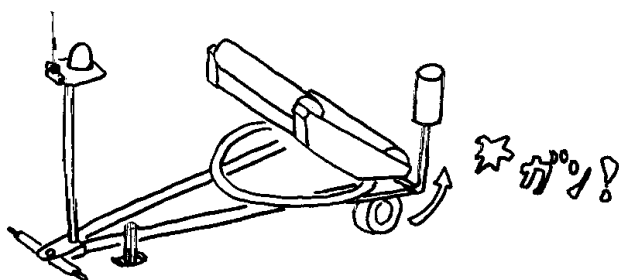
バルブレバーでの操作は、各安全装置が働きません。下記の事項に注意して操作してください。

- ・ストレッチアームが後方にあるときは、ダンプしないでください。



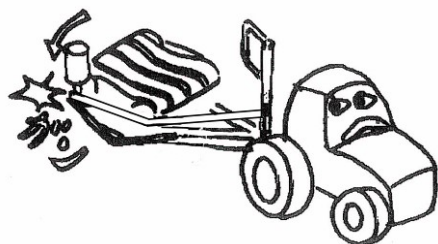
ストレッチアームが破損します。

- ・ダンプした状態でストレッチを回転させないでください。



ストレッチアームが破損します。

- ・安全ガードをたたんだまま作業しないでください。



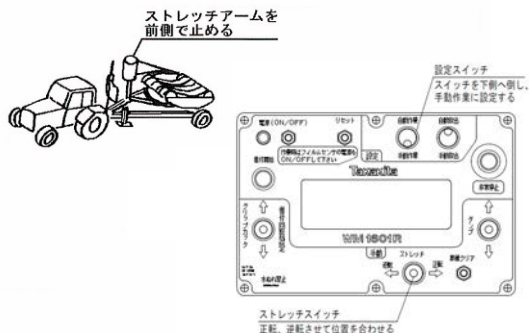
安全ガードが破損します。

注意 バルブレバーでの操作は原則として行わず、コントロールボックスか送信機で操作してください。

作業方法

1 1. 作業から移動への切替え

- ①ストレッチアームを前の位置にして機体幅を最小にしてください。

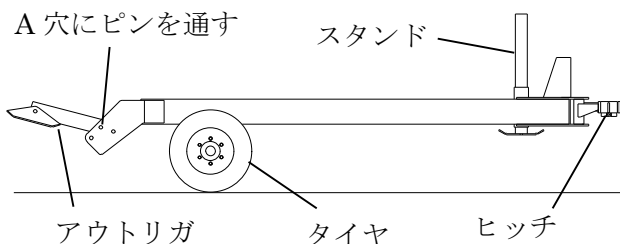


- ②安全ガードをたたむ。

P 3 0 の「6. 安全ガードの取扱い」を参照する。

- ③アウトリガを移動位置にする。

P 3 1 の「8. アウトリガの設置」の項の逆手順によりアウトリガ、スタンドを移動位置にセットし、移動する。



注意

ベールを乗せたまま移動しないでください。

1 2. フィルムの取外し

フィルムの取外しは、P 3 4 ～ P 3 5 の「3. フィルムをセットする」を参照し、セット手順と逆の順序で行ってください。

注意

作業終了後は必ずフィルムを取外し、段ボール箱に入れてください。取外さないでいると紙筒がふやけて本機から抜けなくなることがあります。

警告

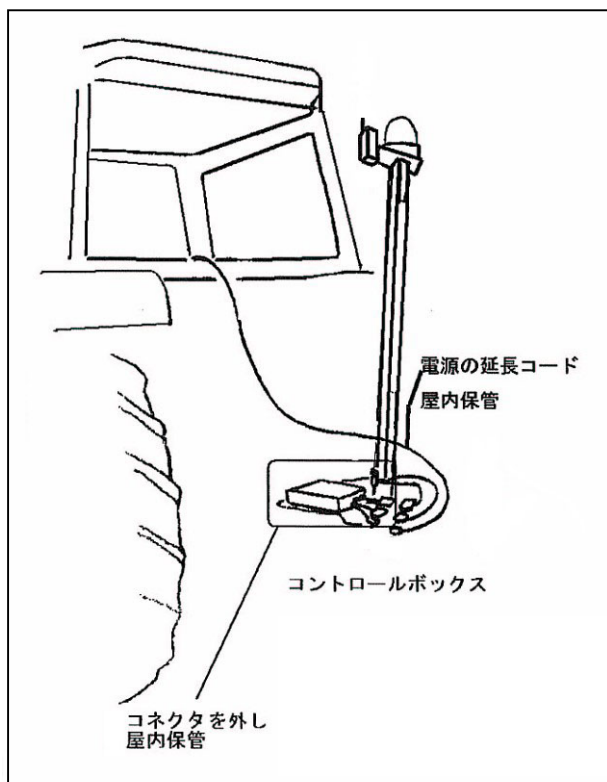
- ①本機を装着しての運転は、道路及び周りの条件に適した速度で行ってください。絶対に急発進・急カーブ・急ハンドルは行わないでください。
- ②カーブを曲がる時は、重心の変化や機械の幅に十分注意してください。

1 3. 保管・格納時の処置

- ①電気部品の取外しと保管

コントロールボックス、送信機、延長コードを本体から取出し、乾燥した屋内に保管してください。

また、フィルムセンサボックスの電源を切ってください。



注意

フィルムセンサボックスの電源を切らないと、ボックス内の電池が消耗します。使わないときは必ず電源を切るようにしてください。

作業前の点検について

作業の安全確保と、故障を未然に防ぐには、機械の状態をよく知っておくことが大切です。
作業前の点検は、欠かさず行ってください。



警告

- 取外したカバー類は必ず取付けてください。衣服が巻き込まれたりして危険です。
- 点検・整備をするときは油圧を切り、エンジンを停止させて回転が止まってから行ってください。
- グリップカッタ部にはナイフがあるので特に注意してください。

点検一覧表

No.	項 目	内 容	参照ページ	チェック
1	コントロールボックスの電源	電源ランプ確認	2 6	
2	無線送信機の電池	ランプ点灯確認、点灯しなければ交換	2 7	
3	草のからみつき等の除去	巻付き及び付着した草の除去	—	
4	タイヤの空気圧	不足のときは空気補充	5 2	
5	ゴムロールへのゴミ・ノリの付着	灯油で取り除く	—	
6	各部のボルト・ナット	ゆるみ、がたつきがあれば増締めする	—	
7	その他各部の注油・グリス	「各部への給油」を参照	5 3	

以上について異常が認められない場合は、エンジン回転速度を低速にし負荷をかけず、
3～5分間ならし運転を行ってから作業を始めてください。

点 検 メ モ

簡単な手入れと処置

！ 警告

- ①各部の調整をするときは油圧を切り、エンジンを停止させて回転が止まってから行ってください。
- ②取外したカバー類は、必ず取付けしてください。

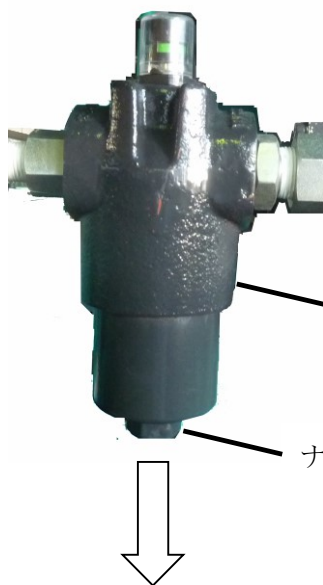
1. オイルフィルタエレメントの交換

◆オイルフィルタを装備

油圧バルブ手前にオイルフィルタを取り付けており、汚れを一定量蓄積するとゲージが赤く表示されます。
ゲージが赤く表示された場合はエレメントの交換を行ってください。

◆エレメントの交換方法

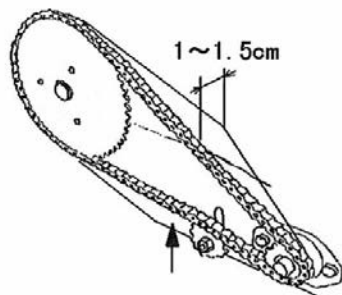
- ①ナットを緩め、矢印の方向にカバーを抜きます。
- ②エレメントを交換します。
- ③カバーを戻し、ナットを締めます。



オイルフィルタ

ナット

2. テーブル駆動ローラ、駆動チェーンの張り調整



M14 ナットを少しゆるめ、スプロケットを手で押し上げて、たわみ量を 1 ～ 1.5cm に調整し、ナットを締付けてください。

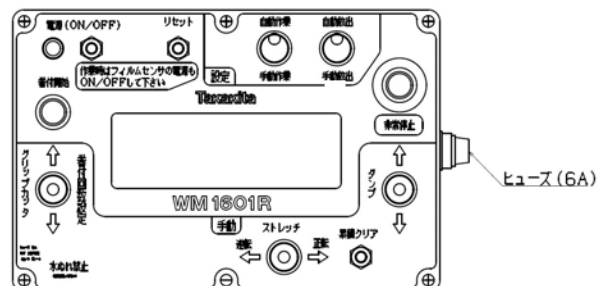
3. ヒューズの交換

電源が入らない場合は、ヒューズが切れている可能性があります。点検し、切れていれば交換してください。

予備ヒューズ各 1 ケをコントロールボックスの裏側に貼り付けています。

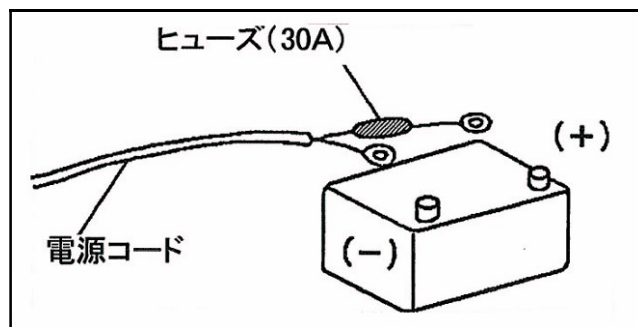
アンペアを確認して使用してください。

◆コントロールボックスのヒューズ



ヒューズ (6A)

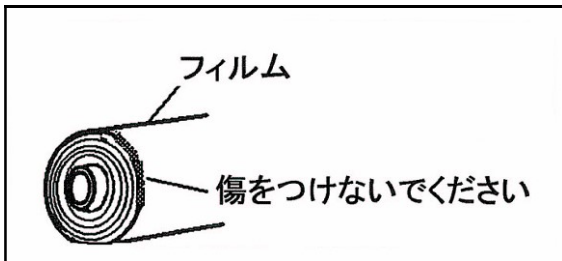
◆電源コードのヒューズ



簡単な手入れと処置

4. フィルムの取扱いについて

- ・フィルムの表面に傷をつけないようにしてください。特に端面は傷がつきやすく、傷がつくとラッピング中に切れますので、注意して取扱いしてください。
- ・使用後は必ず取外し、乾燥した屋内で保管してください。

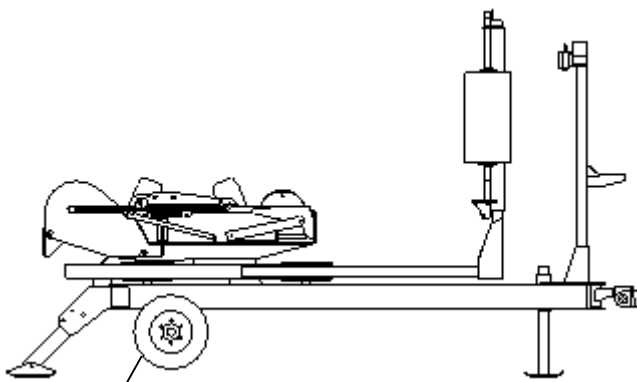


注意

フィルムは雨にぬらさないでください。雨にぬれると紙筒が変形し、抜き取れなくなります。

5. タイヤの点検・修理

◆装着のタイヤと空気圧



タイヤサイズ : 4.00-8 6PR

空気圧 : 700kpa(7.0kg/cm²)

！ 警告

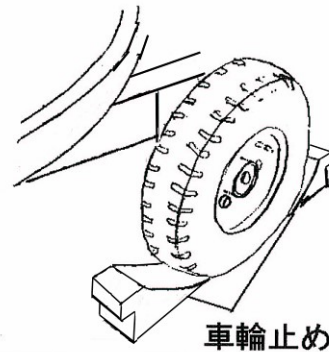
- タイヤに関係する作業を行う場合は、安全な場所に本機を降ろし、必ず車止めをしてから行ってください。
- タイヤ及びホイールに関する修理は、十分な設備をもったタイヤショップなどの専門のところに依頼してください。

6. 車輪止め

駐車時は、必ず車輪止めでタイヤの歯止めをしてください。また、使用後はフレーム部へ格納してください。

！ 警告

本機をトラクタから切り離したときも、必ず車輪止めで歯止めをしてください。本機が動き、思わぬ事故の原因になります。



7. 作業中の草の除草

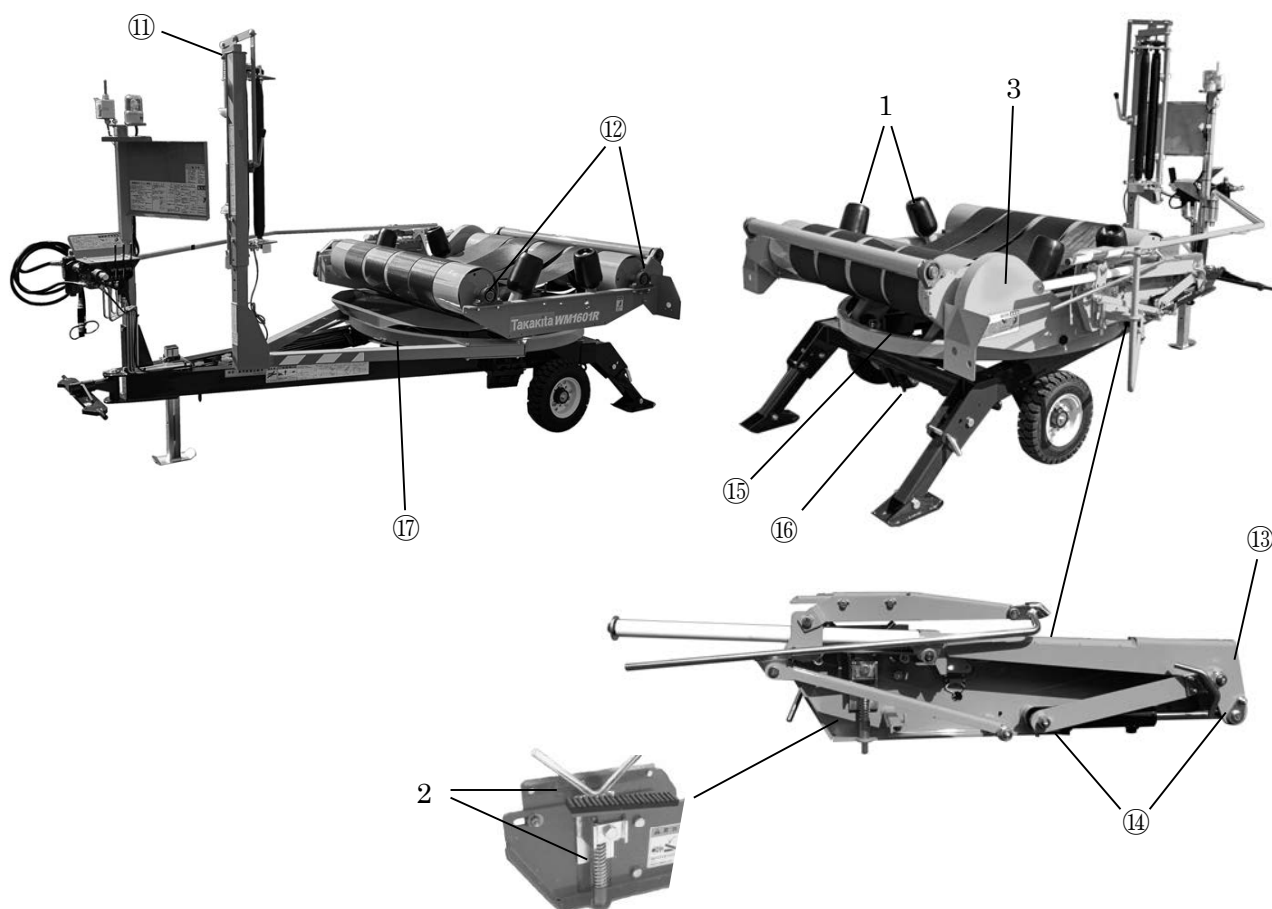
作業中ベールからこぼれた草が本機に多くたまると回転部分に巻付く恐れがあります。定期的に取り除いてください。

！ 警告

草を取り除く際は、必ずトラクタのエンジンを停止してから行ってください。

簡単な手入れと処置

8. 各部への注油・グリスアップ



No.	注 油 箇 所	No.	グリスアップ箇所
1	サイドローラ上（4ヶ所）	⑪	ストレッチブラケット上部
2	グリップカッター摺動部	⑫	テーブルローラのベアリング部
3	テーブルローラの駆動チェン	⑬	グリップカッターリンク支点
		⑭	グリップカッターのシリンダ支点
		⑮	テーブルダンプ支点
		⑯	ダンプシリンダ支点（前、後各1ヶ所）
		⑰	クドウアームスライド部

9. 長期格納時の手入れ

- 水洗いして付着した泥やほこりなどを落とし、巻付いた草などを取除いてください。
- 乾燥後は、各回転・摺動部やチェン類には十分注油し、サビないようにしてください。
- 塗装のはがれた部分には、塗料を塗ってサビないようにしてください。
- 各部のボルト・ナットがゆるんでいないかを確認し、ゆるんでいるときは締めてください。
- 格納するときは、雨やほこりのかからない屋内の平坦な場所で保管してください。

不調診断

不 調 内 容	診 断	処 置	参照ページ
●バルブレバーを操作しても動かない ●ゆっくりしか動かない	●コントロールボックスの電源が入っていない(電源ランプが点灯していない)	●電源を入れる	26
	●カプラのトラクタへの接続が逆である	●電装品破損時は、故障時の油圧バルブ操作方法にて手動操作可能	62
	●カプラが確実に接続されていない	●カプラの接続を逆にする	36
	●カプラのオス・メスが異なっている	●確実に接続する	25
	●トラクタが外部油圧取出しになっていない	●合ったものに交換する	25
	●トラクタの外部油圧取出しレバーが完全に引かれていない、戻っている	●外部油圧に切替える	36
	●トラクタの外部油圧オイルが不足している	●レバーを完全に引いて固定する	36
●コントロールボックスの手動スイッチが働かない	●電源が入っていない(電源ランプが点灯していない)	●規定量まで補充する	
	●電源コード及び延長コードとコントロールボックスの接続が外れている		
	●電源コードの＋－が逆である		
	●ヒューズが切れている(電源ランプが点灯しない)		
	●バッテリーの容量不足ならびに接続不良		
	●自動／手動の切替えが手動になっていない		
●コントロールボックスの手動スイッチの動きが悪い(動く所と動かない所がある、動く時と動かない時がある)	●電源が入っていない	●電源を入れる	26
	●電源コード及び延長コードとコントロールボックスの接続が外れている	●コネクタを接続する	26
	●電源コードの＋－が逆である	●＋は白、－は黒、正しく接続する	26
	●ヒューズが切れている	●コントロールボックス部(6A)	51
●コントロールボックスの手動スイッチの動きが悪い(動く所と動かない所がある、動く時と動かない時がある)	●バッテリーの容量不足ならびに接続不良	電源コード部(30A) 交換	51
	●自動／手動の切替えが手動になっていない	●10. 5V以上ないときはバッテリーを充電	26
		バッテリーと電源コードに接続部ならびに電源コードのヒューズボックスが白い粉をふいているときはみがいて接続し直す	
		●スイッチを手動作業に切替える	38
●コントロールボックスの手動スイッチの動きが悪い(動く所と動かない所がある、動く時と動かない時がある)	●バッテリーの容量不足ならびに接続不良	●10. 5V以上ないときはバッテリーを充電	26
		バッテリーと電源コードに接続部ならびに電源コードのヒューズボックスが白い粉をふいているときはみがいて接続し直す	

不調診断

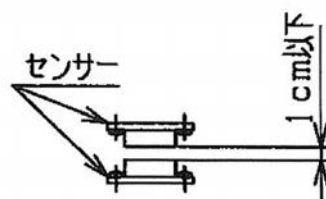
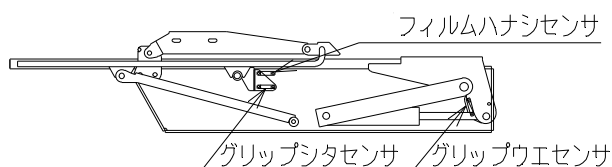
不 調 内 容	診 断	処 置	参照ページ
●コントロールボックスの自動の巻付開始スイッチを押してもまったく動かない パトライトも回らない (エラーメッセージも出ない)	●自動作業／手動作業の切替えが自動作業になっていない ●テーブルが完全に下がっていない (リミットスイッチが OFF の状態で安全装置が働いている) ●テーブルダウンのリミットスイッチの破損及びコードの断線はありませんか？	●設定スイッチを自動作業に切替える ●バルブレバーのダンプを下側に操作して、テーブルを下げ、開始待ちの状態にしてから巻付開始スイッチを押す ●購入先に修理依頼してください	23 39 44
●コントロールボックスの巻数設定ができない (数字がアップ、ダウンしない)	●自動作業／手動作業の切替えが自動作業になっていない ●開始待ちの状態になっていない	●設定スイッチを自動作業に切替える ●リセットスイッチを押して、開始待ちの状態にしてください。 注 意 巻数設定スイッチの上下で設定し、巻付開始、スイッチを押すことで記憶されます	39 44
●コントロールボックスの累積ベール「0」クリアができない	●開始待ちの状態になっていない	●リセットスイッチを押して、開始待ちの状態にしてください	37
●送信機のスイッチを押しても動かない (コントロールボックスの自動は動く)	●スイッチを押しても送信機のランプが点灯しない、もしくは点滅する場合 ①電池容量がない ②電池の+-の入れ違い ●送信機と受信機が同じセットの物ですか？	●電池を交換してください ●電池の+-を入れ替えてください ●同じ Serial No.かを確認してください。 (出荷時はセットで出しています)	27 27
●送信機の操作できる距離が短い ●操作できたりできなかったりする	●送信機とアンテナの間に障害物が多い ●作業環境が金属及びコンクリートが多い場所である	●作業者はアンテナの見通せる障害物のない場所からアンテナに向かって送信してください。	39 40

不調診断

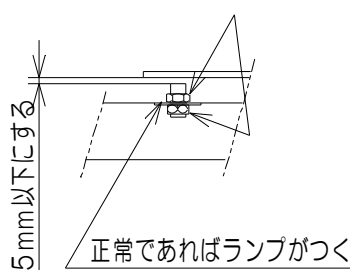
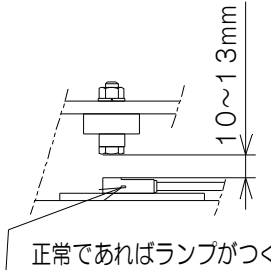
不 調 内 容	診 断	処 置	参照ページ
●フィルムが伸びない または伸びが一定しない	●フィルムの入れる方向が逆である	●正しい向きに入替える	34
	●フィルムがゴムローラを通っていない	●ゴムローラを通し、正しくセットする	35
●ラッピング中にフィルムが切れる	●フィルムに傷がついている	●傷の部分を取除く	52
●フィルムが無くなっても、切れてもストレッチアームが停止しない	●フィルム切れセンサーが破損している ●フィルム切れセンサーの送信機の電池 ①電池容量がない ②電池の＋の入れ違い	●センサーを交換してください。 ●電池を交換してください ●電池の＋を入替えてください	

自動運転時エラーが出て止まる

エラー表示	診 断	処 置	参照
「グリップシタセンサ エラー」 「グリップウエセンサ エラー」 「フィルムハナシセンサ エラー」 作業開始時または作業中に上記エラーになる	●グリップカッタ部のセンサが働いていません ①グリップカッタに何かはさまって下がらないようになっていませんか？ ②グリップカッタのセンサのすき間が広がっていませんか？ ③センサの破損及びコードの切断はありませんか？	①はさまっている物を取除いてください ②すき間及び位置を調整してください ③破損がある場合は修理してください	
「アームガカイトンデキマセン」 ストレッチアームが回転せず 「アームガカイトンデキマセン」になる	●バルブレバーの電気による作動不良 ①バッテリーの容量はありますか？	①容量不足の時はバッテリーを充電してください	26
「ダンプセンサ エラー」 ダンプダウンせず、10秒後に「ダンプセンサ エラー」になる	●バルブレバーの電気による作動不良 ①バッテリーの容量はありますか？	①容量不足の時はバッテリーを充電してください	26



自動運転時エラーが出て止まる

エラー表示	診 断	処 置	参照ページ
「ミギセンサ エラー」 ストレッチが止まり、 「ミギセンサ エラー」 になる	●回転センサが働いていません ①回転センサとセンサプレートのすき間が広がっていませんか？ ②センサの破損及びコードの断線はありませんか？	①ネジですき間調整してください  5mm以下にする 正常であればランプがつく ②修理してください	
「ヒダリセンサ エラー」 ストレッチが止まり 「ヒダリセンサ エラー」 になる	●カッター上げセンサが働いていません ①センサのすき間が広がっていませんか？ ②センサの破損及びコードの断線はありませんか？	①すき間調整してください  10~13mm 正常であればランプがつく ②修理してください	
「テイシイチ エラー」 ダンブアップせず、 1秒後に 「テイシイチ エラー」 になる	●適正停止位置に止まっています(オーバーランしている) ①フィルムをかけないで空回しすると止まる位置がずれる可能性があります ②作業初めでトラクタの外部油圧オイルが冷えている場合、油圧制御が適正に行われず止まる位置がずれる可能性があります ●グリップカッタ部のセンサが働いていません	①フィルムをかけて作業してください ②5分程暖機運転してから作業してください ●「グリップセンサエラー」と同様にセンサのすき間及び位置を調整してください	

付表

1. 主要諸元

品 名	リモコンラップマシーン	
型 式	WM1601R	
装 着 方 法	2Pリンケージ けん引式	
駆 動 方 法	トラクタ油圧（複動1系統）	
適 用 ト ラ ク タ	22.1～73.6kw（30～100PS）	
機 体 寸 法	全 長	3,550mm／移動時 ・ 4,150mm／作業時
	全 幅	2,050mm／移動時 ・ 3,700mm／作業時
	全 高	2,300mm
質 量	760kg	
タ イ ヤ サ イ ズ	4.00-8 6PR	
適用ベールサイズ	巾120cm×径120cm～160cm	
使用可能フィルム	巾50cm×長さ1800m / 巾75cm×長さ1500m 1本	
フィルム重ね率	2重または、その倍数（4重・6重）	

※この主要諸元は、改良のため予告なく変更することがあります。

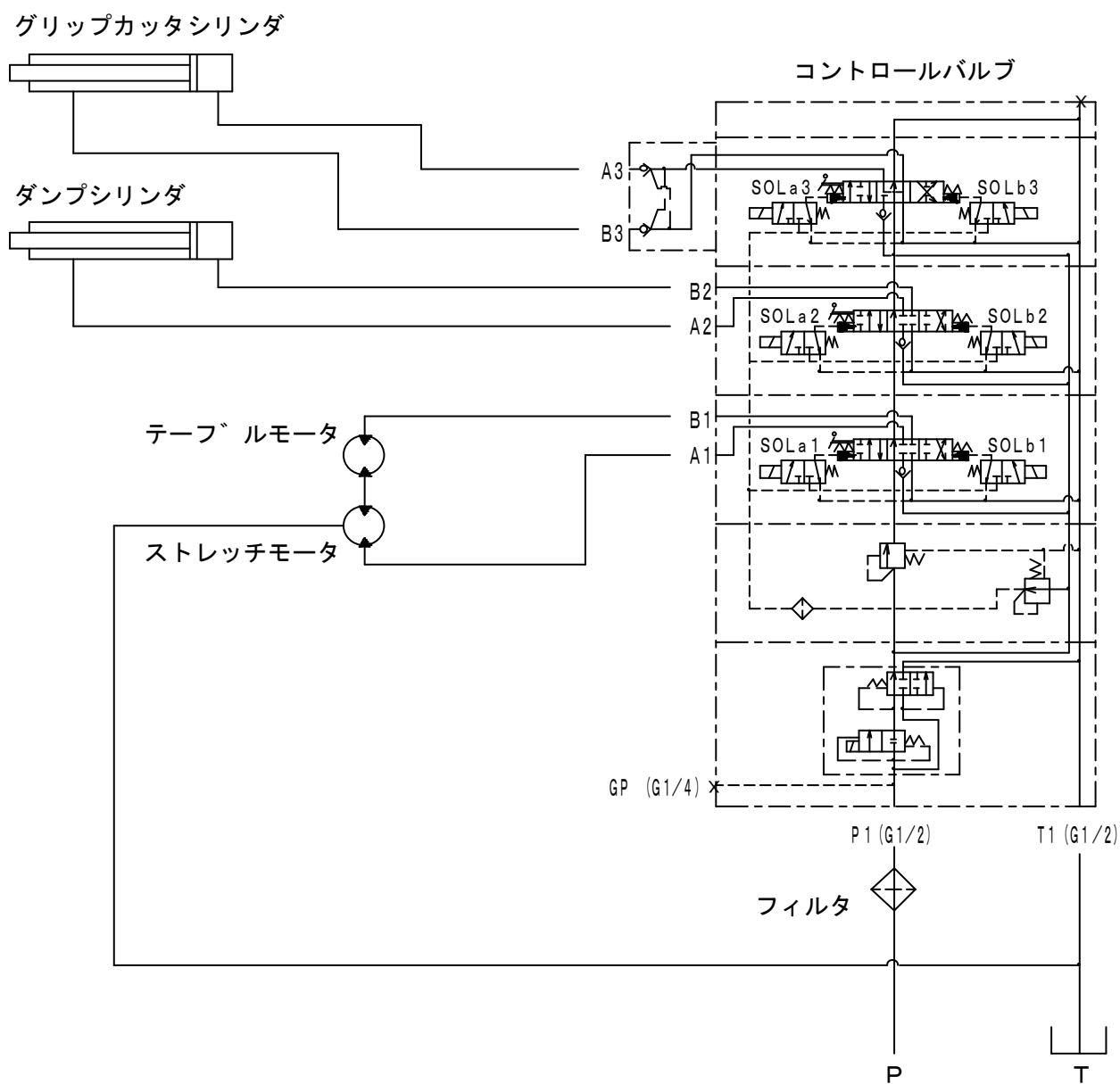
2. 主な消耗部品

品 名	部品コード	備 考
ヒューズ 6A	00900-0100-060	コントロールボックス用
ヒューズ 30A	00900-0100-300	電源コード用
電池	67105-2542-010	無線送信機用 コイン電池CR2032
	67105-2543-000	フィルムセンサボックス用 単3アルカリ電池

3. 配線図



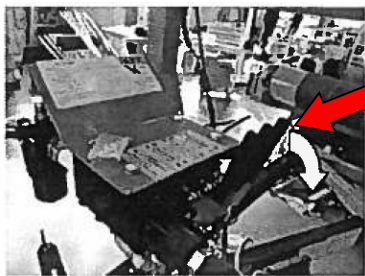
4. 油圧回路図



付表

5. コントロールボックス故障時の油圧バルブ操作方法

- 本機はコントロールボックスにて各動作時のオイル流量制御（速度制御）を行っており安全上コントロールボックスの電源を ON にした状態でないとバルブレバーを操作しても動作しない構造となっています。

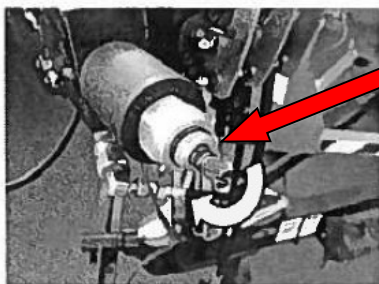


コントロールボックスの電源を ON にしないとバルブレバーを操作しても動作しません。

- コントロールボックスの故障や電源コードの断線などによりバルブレバーでの手動作業が必要な場合は下記の手順を行ってください。

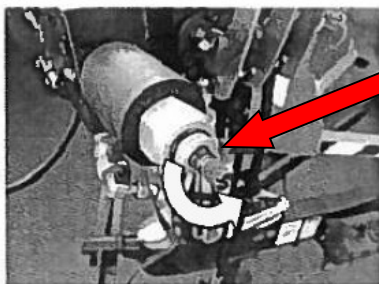


①油圧バルブ左手前についているキャップを外します。



②キャップを外すと赤いネジがあります。
ネジは通常一番緩めた状態になっています。
ネジを締め込んでいくとオイルが流れる仕組みになっています。

③ネジの締め込み量により機械の動作速度を調整することができます。
ストレッチアームの回転速度が速すぎると機械の破損につながります。必ず30回転/分以下になるよう調整してください。



④コントロールボックスやコード等の修理が終わり通常の作業方法に戻る場合は、必ずネジを一杯まで緩めキャップを取付けてください。

注意

- ・流量調節のネジは、作業速度を確認しながら徐々に低速から調整してください。
ストレッチアームの速度だけでなく、グリップカッタ、テーブルダンプの速度も確認しながら調整してください。